

第六表甲

第二十二類 兵事 陸軍

甲一一八

輜重兵一ケ年間教育順次概表

學期	年次	學 術		學 科
		初 年 兵	二 年 兵	
第 一 期	初 年 兵	柔 軟 體 操	徒 步 生 兵 教 練	初 年 兵
	二 年 兵	柔 軟 及 器 械 體 操	徒 步 生 兵 教 練	
	三 年 兵	上	上	
第 二 期	初 年 兵	讀 法	武 官 階 級 及 制 服 名 別	初 年 兵
	二 年 兵	同 上	射 擊 學 績 要	
	三 年 兵	同 上	上	
第 三 期	初 年 兵	大 隊 長 新 兵 ノ 檢 閱	射 擊 預 行 演 習	初 年 兵
	二 年 兵	射 擊 預 行 演 習	距 離 測 量	
	三 年 兵	上	上	
第 四 期	初 年 兵	大 隊 長 新 兵 ノ 檢 閱	射 擊 預 行 演 習	初 年 兵
	二 年 兵	射 擊 預 行 演 習	距 離 測 量	
	三 年 兵	上	上	
第 五 期	初 年 兵	大 隊 長 新 兵 ノ 檢 閱	射 擊 預 行 演 習	初 年 兵
	二 年 兵	射 擊 預 行 演 習	距 離 測 量	
	三 年 兵	上	上	

考 備	期 五 第	期 四 第	期 三 第	期 二 第
<p>一 第四期ヨリ同五期ニ至ル間ト雖トモ乘馬演習ハ絶ヘス行フモノトス其演習ハ各個教練ヲ主トシテ教授スヘシ</p> <p>二 初年兵ハ第四期ヨリ他兵隊ニ屬シテ演習セシムルコトヲ得</p>	機 動 演 習	前 期 = 同 シ	師 團 長 教 練 ノ 檢 閱 大 隊 長 中 隊 ノ 體 操、各 種 物 品 積 載 作 業 及 學 科 ノ 檢 閱	大 隊 長 中 隊 ノ 教 練 及 學 科 ノ 檢 閱
	上 同	上 同	上 同	野 外 勤 務 初 步
	上 前 期 = 同 シ	上 前 期 = 同 シ	上 算	野 外 勤 務 初 步
	上 同	上 同	術 第 一 第 二 期 ノ 課 目	各 種 物 品 積 載 法
	上	上	上	各 種 物 品 積 載 法

第二十二類 兵事 陸軍

甲一一九

第六表乙

輸卒教育順次概表

學期	學術		科	學	科
	第一	第二			
期	月	月			
	二	一			
考 備	大隊長教練及體操ノ檢閱		大隊長學科ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
	各種物品積載ノ業務	各種物品積載ノ業務	各種物品積載ノ業務	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識
大隊長野外科務ノ檢閱		大隊長野外科務ノ檢閱	大隊長野外科務ノ檢閱	勸導ノ識	勸導ノ識

●將校團教育令

明治二十二年五月 陸達第八十六號

將校團教育令別冊之通被定 (別冊)

將校團教育令

將校一人トシテ教育ナカル可ラス故ニ將校團一日トシテ教育法ナカル可ラス乃チ茲ニ將校教育ノ綱領ヲ示ス

將校ノ貴重ナル所以ノ者ハ軍人精神アルニ由ルナリ故ニ將校ノ教育ハ先ツ此精神ヲ養フヲ以テ主ト爲ス可シ

將校ハ指揮官ト教官ト兼ル者ナリ智識ト材能トヲ具備セサル可ラス此二者ヲ併テ併進セシムル者獨リ教育ノ力ニ賴ル將校ノ教育ハ漸次其歩ヲ進メ每級其器ニ適スルヲ要ス故ニ各部隊ノ長官ハ之ニ獨立ノ任務ヲ與ヘ以テ其教育ヲ完成セサル可ラス

長官及先輩將校ハ青年將校ニ對シ教導誘掖ノ任アリトス故ニ躬行ヲ慎ミ率先ヲ務メ模範ヲ示シ訓誨ヲ垂レ以テ之ヲ薰陶スヘシ

將校ノ任務タルヤ重大ニシテ繁雜ナリ故ニ將校ハ日常勤務ノ外ニ於テ各自其智識材能ヲ進ムルコトニ懈レ可ラス若シ然ラサルトキハ當ニ其榮譽ヲ傷ケ義務ヲ缺クノミ

ナラス遂ニ國家ニ裨益スル無キニ至ラン
將校ノ教育ハ將校團長ノ責任トス其方法固ヨリ一ニシテ足ラス今其科目ノ須要ナル者ヲ掲シレハ左ノ如シ

術科

隊附勤務

學科

冬季作業

講話

兵棋

地形測量

現地上ノ講話

●教育實施教令

明治二十二年五月
陸達第八十七號

將校團教育實施教令別冊之通定ム

(別冊)

將校團教育實施教令

第一條 將校團教育令ノ科目ニ基キ實施スヘキ順次概テ左ノ如シ

第二條 術科學科ハ共ニ將校ノ智識材能ヲ進メ各自責任ヲ盡スニ缺ク可ラサル能力ヲ得セシムルモノニシテ其隊附勤務中野外演習及冬季作業以下ノ諸課ハ將校平素學修ノ結果ヲ表シ其成績ヲ上官ノ閱視ニ供スルモノトス

野外演習

第三條 聯隊長ハ大尉ニ大隊長ハ中少尉ニ毎年九月下旬迄ノ間ニ就キ教育順次教令ニ指示セシ野外演習ノ時期ニ於テ一ノ任務ヲ與ヘ獨立指揮ノ演習ヲ行ハシム

第四條 獨立大隊長ハ大尉及中少尉ニ前條ノ演習ヲ行ハシム

第五條 兵種ニ依リ獨立シテ對抗ノ野外演習ヲ行フ能ハサルモノハ第三及第四條ニ準シ聯隊長及大隊長ハ其兵科専門ノ勤務ニ就キ一ノ獨立任務ヲ與ヘ之ヲ實施セシム

第六條 第三第四及第五條ノ演習ヲ行ヒタル大尉及中少尉ハ演習後四十八時間内ニ掌圖ヲ附シタル實施報告(第一書式)ヲ將校團長(步兵砲兵ハ大隊長ヲ經テ)ニ呈シ將校團長ハ其内優等ナルモノヲ師團長(步兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ呈ス但實施報告ノ經由スル各官ハ各報告ノ全體若クハ其一部ニ就キ批評ヲ添加スルモノトス

第七條 各將校團長ハ此演習終ル毎ニ野外演習實施表(第二書式)ヲ作り師團長ニ呈

又々騎兵砲兵工兵輜重兵科ニ在テハ同時ニ其兵監ニ呈ス
冬季作業

第八條 各將校團ノ大中少尉ハ毎年冬季ニ於テ一ノ問題ニ付キ答案ヲ申ス其問題ハ即チ一年ハ勤務上其次年ハ戰術上ノ範圍ニ於ケル如ク交互ニ變換スルヲ要ス

第九條 問題ハ大尉ノ爲メニ一題中尉ノ爲メニ一題少尉ノ爲メニ一題各將校團ノ長之ヲ撰擇シ毎年十二月一日之ヲ各將校ニ附與ス而シテ此作業ハ三月一日迄ニ竣ルモノトス

第十條 各自ノ作業ハ決シテ他人ノ助力ヲ受ク可ラス又筆記ハ明瞭ナルヲ要ス(第三書式)

第十一條 引用書目ハ之ヲ明白ニ記載シ又ク引用書中ヨリ抜萃セシ文章ハ圓點ヲ附シテ自作ノ文章ト區別スヘシ

第十二條 作業竣成ノ上ハ之ヲ上官ニ呈スルコト第六條ニ同シ但シ批評スルニ最モ注意スヘキハ其事ノ洞見熟慮ト獨立ノ判断ト言顯ハシノ明瞭ナルトニアリ

第十三條 各將校團ノ長ハ毎年五月冬季作業實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第四書式)

講話

第十四條 各將校團ニ於テ時期ニ拘ハラズ少佐大尉若クハ右參中尉ニシテ戰史或ハ各自研究シタル事項或ハ諸學校分遣中ノ經驗或ハ特派道セラレタル旅行ノ報告或ハ特ニ命セラレタル任務ノ結果等ヲ講話スルモノトス

第十五條 講話ノ問題ハ將校團長之ヲ命スルカ若クハ團長ニ咨稟シテ許可ヲ受ク而シテ講話案ヲ草スルモノトス(第五書式)

第十六條 講話ノ時日ハ數週日前ニ之ヲ定メ將校團長之ヲ團中ニ報道スルモノトス

第十七條 將校團長ハ毎年五月講話ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第六書式)

兵棋

第十八條 兵棋ハ各將校團ニ於テ常ニ行フヘキモノニシテ將校團長ハ毎年五月兵棋ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第七書式)

地形測量

第十九條 各將校團ノ大中少尉ハ故障ナキ時期ニ於テ各衛戍地近傍ノ地形測量ヲ爲ス其場所及ヒ區域ハ將校團長之ヲ定ムルモノトス

第二十條 竣成ノ上之ヲ上官ニ呈スルコト第六條ニ同シ(第八書式)

第二十一條 各將校團長ハ毎年五月地形測量ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ（第九書式）
 現地上ノ講話
 第二十二條 將校團長ハ勤務ニ故障ナキ諸將校ヲ交互ニ現地上ニ誘引シ自カラ統裁スルモノトス
 第二十三條 各將校團長ハ毎年五月現地上講話ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ（第十書式）
 第二十四條 本教令實施上ノ費用ハ別ニ之ヲ支給セサルモノトス

（第一書式）

（美濃紙）

廓ハ朱以下皆同シ

△明治二十二年九月一日點檢畢

△師團長記名

△明治二十二年八月十五日點檢畢
 △明治二十二年八月十日點檢畢
 △明治二十二年八月八日點檢畢

△旅團長記名

△聯隊長記名

△大隊長記名

隊 號
 官 姓 名

明治二十二年八月四日於大久保村野外演習實施報告

明治廿二年八月四日大隊長少佐某殿ノ統監ニ依テ步兵第一聯隊第二大隊中尉某ト對抗セシ野外演習ノ實施報告

一般方畧(或ハ假想戰況及任務)

第二十二類 兵事 陸軍

(第三書式)

△(美濃紙)

甲一三二一

	△明治二十二年四月十日 日點檢畢	△(師團長記名)
	△明治二十二年三月三十一日點檢畢	△(旅團長記名)
	△明治二十二年三月二十日點檢畢	△(聯隊長記名)
	△明治二十二年三月十日 日點檢畢	△(大隊長記名)
隊 號		
官 姓 名		
	明治二十二年十二月一日問題受領	
	明治二十二年二月二十日作業竣功	

△用書目
ノ總テ答
案ノ終テ
ニテ字下
シテ括弧
ハニ記載
ス内ニシ

	問題	全文	年月日	問題授與者ノ官姓名	答案	年月日	答案者ノ官姓名	年月日	答案者ノ官姓名	年月日	答案者ノ官姓名	年月日	答案者ノ官姓名	年月日	答案者ノ官姓名

第二十二類 兵事 陸軍 甲一三二一

第二十二類 兵事 陸軍

(第五書式)

(美濃紙)

甲一三六

△明治二十二年 月 日點檢畢	△(師團長記名)
△明治二十二年 月 日點檢畢	△(旅團長記名)
△明治二十二年 月 日點檢畢	△(聯隊長記名)
△明治二十二年 月 日點檢畢	△(大隊長記名)
隊 號	
官 姓 名	
明治二十二年十一月於何地	

△引用書目
ノ終話案
ニ字下ケ
テ括弧内
ヘシ記載ス

講 話 案	講 話 者 ノ 官 姓 名
講 題 授 與 者 ノ 官 姓 名	講 題
全 文	年 月 日
△(印)	

第二十二類 兵事 陸軍

甲一三七

略圖ヲ受
スノナニ
ヘシハル
シテハル
附尺當話

		△大(聯)隊長ノ批評	
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△旅(師)團長ノ批評	
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名
△年月日		△官	姓 名

(第六書式)

△(美濃紙)

明治二十二年講話實施報告表

問	題	講話月日	講話者官姓名	備	考
イ		八月十日	官 姓 名	優等ニ付案ヲ旅團長ニ呈ス	
ロ		七月二十日	同	同偕行社記者ニ就ス	
ハ		十月十一日	同	旅(師)團長出席	
ニ		一月三日	同		

第二十二類 兵事 陸軍

(第九書式)

明治二十二年地形測量實施報告表

△(美濃紙)

地名	測圖種類	月	日	測圖者官姓名	備	考
	黒目算測圖	五月	十日	歩兵中尉 某		
	板橋及附近迅速測圖	六月一日ヨリ 同月七日迄		歩兵少尉 某	測板及アリゲードニハラトリ スチ用ヒタリ	

甲一四二

(第十書式)

明治二十二年現地上講話實施報告表

△(美濃紙)

地名	年月	日	參與人名	統	裁	官備	考

第二十二類 兵事 陸軍

甲一四三

●將校團教育令

明治二十二年五月
陸軍省訓令第二號

今般將校團教育令被定候ニ付其實施ノ方針ヲ示サンカ爲メ別冊教育訓令ヲ頒ツ須シ
基準ト爲スヘシ此旨訓令ス

(別冊)

將校團教育訓令

第一 綱領

將校ノ教育ヲ要スルヤ固ヨリ當然ナリ而シテ必任義務ヨリ成ル所ノ軍隊ニ在テハ殊
ニ有爲ノ將校團ヲ養成セズンハアル可ラス

何ヲ以テカ之ヲ言フ曰ク左ノ二項ノ理由アルナリ

第一 必任義務ヨリ成ル所ノ軍隊ノ兵卒ハ勉メテ短日月ヲ以テ其教育ヲ完フセサ
ル可ラス且ツ其兵卒中己ニ教育ノ素アル者(一年志願兵)アリ故ニ此軍隊ノ將校
ハ大ニ教育ニ富メルモノニシテ常職兵ヨリ成ル所ノ軍隊ノ將校ヨリ更ニ大ナル
要求ニ應セサル可ラス

第二 必任義務ノ軍隊ニ在テハ下士モ亦半ハ義務兵ナリ乃チ終身兵事ニ任スル者
ハ獨リ將校ノミ故ニ此將校ノ責任ハ殊ニ重大ナル者トス若シ將校アラスンハ誰

カ全國ノ軍人精神ヲ負擔シ及ヒ之ヲ將來ニ持續セン全國軍隊ノ能ク其用ヲ濟ス
ト否トハ一ニ軍人精神ノ消長ニ由ル者ナリ

軍人精神トハ何ソ忠誠ナリ武勇ナリ信義ナリ義務ヲ守ルナリ質素ヲ主トスルナリ禮
儀ヲ正フシテ軍紀ニ服従スル是ナリ一軍人此精神アリ故ニ能ク心身ノ勞苦ニ堪ヘ能
ク敵彈ニ對シテ動作ス凡ソ爲サ、ル可ラサル任務ニ當リテハ全力ヲ竭シテ之ヲ完了
シ恥ヲ知り名ヲ惜ミ生ヲ舍テ、義ヲ取ル者此精神アルニ由ルナリ一蓋シ其意苟モ責
任ヲ盡スニ在ルトキハ艱苦缺乏復々避ル所ニ非ズ不虞ノ事ニ遭ヒ困厄ノ境ニ臨ムモ
自ラ思ヒ自ラ決シ遂ニ自ラ之ヲ處置シテ其宜ニ適フ者ナリ一之ヲ要スルニ此軍人精
神ナル者ハ其儀ノ在ル所ニ當リテハ其身ヲ犧牲ト爲スヲ樂ム一故ニ此精神ヲ養ヘハ
則チ國家全體ノ幸福ヲ増ス者ナリ一國家全體トハ何ソ全國ノ軍隊ナリ父祖ノ國ナリ
皇室ナリ一軍人精神ナル者ハ此三者ノ爲メ一日モ無カル可ラサルナリ
此軍人精神ナル者ハ人々ニ就テ之ヲ言ヘハ一朝一夕ノ能ク生シ得ル所ニ非ズ漸チ以
テ養ハサルヘカラス然レトモ將校團ハ則チ然ラス永久軍人精神ノ保存所ナリ常ニ之
ヲ充溢セシノ常ニ此精神ノ模範ヲ示シ或ハ拘束シテ之ニ就カシメ以テ國家全體ヲ裨
益セズンハアル可ラス一勤務上及ヒ勤務外ニ於テ青年ノ軍友ト交際スル毎ニ此精神
ヲ薰陶養成スルハ先輩將校ノ任ニシテ其直接ノ長官ノ如キハ殊ニ此義務ヲ負フ者ト

ス

凡ソ將校ハ常ニ其部下ノ教官及ヒ指揮官ヲサカレヘカラス故ニ之ヲ要スル所ノ智識材能ヲ修有スルヲ義務トス其官ノ高下ヲ問ハス之ヲ修有セント欲セハ當ニ其現在ノ智識材能ヲ保有スルノミナラス更ニ自ラ勤學修業ニ勉メスソハアルヘカラス苟モ此勤勉ヲ怠ラハ終ニ善良ノ結果ヲ得サルヘキナリ

青年將校ヲシテ修學セシムル爲メニ摸範ト誘掖ニ勉ムルハ先輩將校ノ任ナリ又部下ノ青年將校ヲシテ誠實ニ其義務ヲ盡サシメ實地必要ノ業務ニ就カシメ且ツ誘掖ト教訓トヲ以テ善ク之ヲ扶助スルコトハ即チ直接長官ノ特任ナリ能ク此ノ如ク部下ノ教育ニ匪勉スルコトハ當ニ部下若干青年將校ノ爲メノミナラス更ニ國家全體即チ皇室祖國全軍ノ三者ノ爲メ最大利益ヲ成ス者ナリ

部下青年將校ノ教育ヲ統轄スル長官ノ誘導方法ノ得失ハ其長官ノ長官ニ於テ之ヲ監督スルヲ要ス將校團ノ教育ニ於ケル其長タル聯隊長及ヒ大隊長ハ猶ホ中隊長カ下士卒ノ教育ニ於ケルカ如シ下士卒ノ教育ニ任スル中隊長ハ其躬行ヲ慎ミテ摸範ヲ示スヲ緊要トス蓋シ言ヲ以テ訓ルハ身ヲ以テ率ルノ効驗アルニ如カサレハナリ中隊長尙ホ然リ況ンヤ將校團長ニ於テチヤ將校團長ハ即チ將校團教育ノ責任者ナリ

第二 術科

將校團ニ於テ教育スル術科ハ即チ隊附勤務ニシテ就中青年將校ノ爲メ最細モ要ナルモノナリ

青年ノ將校ハ已ニ士官學校ニ於テ種々ノ有益及ヒ必要ノ學識ヲ修メ得タリ然レトモ之ヲ實際ニ應用スルコトハ未ダ嘗テ爲サ、ルナリ且ツ將校ニ必要ナル職務ニハ隊附トナリテ後ヲ始テ之ヲ修ムヘキモノアリ此二者ハ一タヒ隊附勤務ニ從事スルニ非サルヨリハ決シテ習ヒ得ル能ハサルナリ「夫レ部下ノ教官且ツ指揮官タルノ資格ニ對シ要求スヘキ件々ハ甚タ多シ然レトモ之ヲ始ヨリ青年將校ニ要求スルハ過望ナリト謂ハサルヘカラス此等諸件ハ漸チ以テ修習シ且ツ其基址ヨリ階級ヲ逐ヒ秩序ヲ經テ進歩セサルヘカラス

隊附第一年ノ青年將校ニハ特ニ若干ノ新兵ヲ附シ獨立シテ之ヲ教育セシメ以テ經驗ヲ積マシムヘシ但其中隊ニ於テ新兵教育ニ任スル先輩將校ノ監視ヲ受クヘシ此先輩將校ハ勉メテ青年將校ヲ誘掖シ其勤務ヲ助クヘキ者ナリ

青年將校ヲ誘掖スルノ任ハ特ニ中隊長ニ在リ故ニ青年將校ヲ練兵體操射擊ノ監視ニ任スル時及ヒ學科教授ニ任スル時ハ屢々之ニ莅ミ而シテ其監視教授ノ方法ニ關シ時々之ヲ教示スヘシ「中隊長ハ又青年將校ノ爲メ左ノ事項ニ注意セサル可ラス曰ク精神身體ヲ興奮シ常ニ勤務ニ勉勵スルコト曰ク命令ヲ下スニ簡明確切ナルヘキコト曰

少部下ヲシテ奮勵勤勉セシムルコト且ツ更ニ一言スヘキコトアリ曰ク能ク以上ノ事ヲ擧ケ得ンニハ常ニ諸規則(操典、教範)ニ通曉シ諳識セサル所ナキヲ要ス」中隊長ハ左ノ事ヲ要求スヘシ曰ク將校タル者ハ獨リ兵卒各自ノ姓名ヲ知ルヘキノミナラス更ニ其私事ノ關係、入隊以前ノ行狀、身體精神ノ天稟等ヲ審ニシ其器ニ從ヒ之ヲ遇セヨト」又左ノ事ヲ教示スヘシ曰ク下士卒ヲシテ悅ンテ我カ要求ヲ實行シ及ヒ命令ニ服從セシメント欲セハ先ツ自ラ其身ヲ正フシ嚴正ニ義務ヲ盡シ及ヒ命令ニ服從シ以テ模範ヲ示スヘシ教ノ最モ善キ者ハ躬行率先ヨリ善キハナシト

青年將校ハ漸次此ノ如ク上ニ服シ(悅ヒ甘ンシテ)下ニ命スル(確切ニ簡明ニ)ノ道ニ習熟シ且ツ必要ナル勤務上ノ學識ヲ以テ其身ノ所有物ト爲スヲ得ヘシ」此所有物ノ數量ノ多キヲ加ルニ隨フテ其將校ノ長官殊ニ其中隊長ヨリ獨立ノ任務ヲ要求スルコト亦其數ヲ増スヲ得ヘシ

教育ノ一部ヲ擔任スルニ方ツテ之ニ任スル將校ハ其任務ノ目的ヲ果スコトヲ知ラサル可ラス然レトモ此ノ目的ニ達スル方法ノ詳細ハ教示ヲ待ツヘキモノニ非ラス蓋シ此任務ノ原則ハ數年ノ準備教育ニ於テ既ニ熟知セサル可ラサレハナリ」中隊長ハ又其方法ニ關シテハ勉メテ青年將校ニ一任シ插嘴掣肘スルコトヲ避クヘシ唯必要ニ際シテハ疑問シテ其意旨ヲ吐露セシムヘシ

凡ソ獨立任務ニハ責任必ス之ニ連繫ス故ニ任務ヲシテ獨立セシムル此ノ如キトキハ將校ハ其勤務中常ニ快樂ト利益トヲ得且ツ榮譽心ヲ興起スル者トス」任務ヲシテ獨立セシムル此ノ如キトキハ高級上官ノ檢閲ニ隊附將校ノ材能優劣ヲ知ルニ易シ」若シ此檢閲ノ時軍隊ノ教育上ニ缺點ヲ見ルトキハ其當然ノ方法ヲ教示シテ將來ニ裨益スヘシ徒ラニ既往ヲ咎メテ譴責スルニ止ル勿レ

大ナル團隊(大隊、聯隊、旅團)ノ演習中野外演習ハ將校ニ特別ノ任務ヲ授ケ以テ左ノ諸項ヲ進歩セシム曰ク戰術上ノ理解力曰ク機敏ナル視察力曰ク決斷力曰ク命令ヲ下スニ簡明且ツ確切ナルコト

凡ソ青年將校ノ野外演習ヲ行フニ方リ之ヲ審判スル上官ハ左ノ諸項ニ當ル者アレハ嚴ニ譴責セサル可ラス曰ク其心ノ優柔不斷ナル、曰ク其事ヲ行フニ緩慢ナル、曰ク困苦ニ屈撓セサルノ氣力ナキ、是ナリ」蓋シ將校タル者ハ偶然困厄ノ地ニ臨ムモ一心明ニ進退取捨ヲ決シ己ニ之ヲ決スレハ身ヲ以テ責ニ任シ障礙ニ屈セス艱苦ヲ避ケス剛毅堅忍必ス其意ヲ貫徹スルヲ勉ムヘシ其事ノ處置或ハ當ヲ得サルアルモ猶ホ決行ノ遲緩ナルニ愈ル者タレハナリ」抑審判ハ總テ譴責ノミニ涉ル可ラス丁寧ニ教示スルヲ要ス可シ曰ク彼ノ點ハ不可ナリシ、曰ク當サニ此ノ如クスヘカリシ、曰ク若シ此ノ如クセハ或ハ此ヨリ愈リシナラン等

聯隊長若クハ大隊長ハ年々少クモ一回大尉及中少尉ニ一ノ獨立任務ヲ與ヘ對抗ノ野外演習ヲ行ハシム而シテ指揮セシムヘキ兵員ノ多寡、任務ノ難易ハ官等及停年ノ新古ニ適合セシムルヲ要ス」其指揮セシムヘキ兵員ハ凡ソ中少尉ニハ戰時人員ノ一小隊、古參ナル中尉ニハ一中隊又大尉ニハ戰時人員ノ一中隊、故參ナル大尉ニハ二中隊若クハ一大隊トス」演習終レハ統監ハ直ニ其處ニ於テ各指揮官ノ計畫命令及其實施上ノ得失ニ就キ意見ヲ述ヘテ教示スヘシ」此演習ハ各將校ヲシテ平素勤勉ノ結果ヲ顯ハサシムル者トフ故ニ高級上官ハ勉メテ之ニ臨ミ其成績ノ優劣ニ因リ以テ其器ヲ鑒識スヘシ

中隊長ハ常ニ中隊ニ在テ行フ所ノ野外勤務若クハ野外演習ニ於テ青年將校ヲシテ勉メテ數回獨立ノ任務ヲ行ハシメ以テ前項ノ準備ヲ爲サシムルヲ任トス（其任務ハ例ヘハ小哨ノ配置、小哨ヲ以テ敵襲ヲ拒支スル事、大ナル斥候ノ指揮、小哨ノ攻撃、徵發ノ掩護、敵ノ徵發ヲ妨害スル事等但皆單簡ナル戰況ヲ基本トシテ之ヲ行ハシム）若シ此演習ニ於テ其失錯ヲ見ルトキハ又之ニ教示スヘシ曰ク此事ハ當サニ云々スヘカリシ當サニ云々セサルヘカヲサリシト凡ソ此ノ如キ教示ハ啻ニ此演習ノミナラス他ノ勤務ノ時ニ於テモ亦然ラサルヘカラス

砲兵ノ野外演習ハ必ス他ノ兵種ト連合セサル可ラス故ニ砲兵將校ハ之ニ要スル處ノ

準備ヲ學科上ニ由テ行ハサル可ラス

青年將校ハ上文ニ開載セル原則ニ從ヒ隊附勤務ニ教育セラレ且ツ之ト共ニ自己ノ勤學ヲ懈ラスシテ其知識ヲ進ムルニ非ラサレハ中隊長ト爲ルコトヲ得ス蓋シ中隊長ナル者ハ其下ニ屬セラレタル部隊ノ教育ヲ獨立シテ之ヲ行ヒ其擔保ノ責ニ任スルモノナレハナリ

凡ソ中隊ニ要求スル事件ハ唯其目標ヲ其中隊長ニ示スヲ以テ足レリトス苟モ目標アレハ之ニ達スヘキ方法ハ自ラ求メ得ヘキ者タリ

此目標即チ教育ニ必要トスル所ノ目標ハ各中隊（同一ノ大隊若クハ同一ノ聯隊ニ屬スル）總テ齊一同軌ナラサル可カラス蓋シ此各中隊ハ必ス他ノ各中隊ト併合シテ一個體ト爲ラサル可ラサル者ナレハナリ」然レトモ其目標ニ達スルノ方法ニ至リテハ各隊各様ナルヲ禁セテ故ニ其簡短便捷ノ方法ヲ擧用スルハ一ニ其人ノ力ニ在リ

中隊長ハ其中隊ヲ教育スルノ責ニ任スル者ナリ故ニ其教育ニ關シテハ勉メテ十分ノ自由ヲ與ヘ之ヲ掣肘スヘカラス高等司令官（旅團長、師團長）モ亦當ニ此ニ注意シテ必ス順序ヲ越エテ其方法ヲ左右スル等ノ事アルヘカラス

聯隊長若クハ大隊長ノ中隊長ニ教示スルハ左ノ時ニ限ル者トス曰ク中隊長ノ爲スルニ於テ必要缺ク可ラサル事アル時曰ク中隊長ヨリ教示ヲ求メタル時」又其教育上命

令ヲ以テ之ニ干涉スルハ左ノ時ニ限ルヘン曰ク中隊長ノ任意放恣ナル曰ク爲ス可ラサルヲ知リツ、尙ホ之ヲ行フ曰ク過失(例ヘハ操典上ノ規則ヲ違奉ヒサル)曰ク軍紀ヲ害スルノ方法ヲ以テ其勤務ヲ爲ス(例ヘハ練兵ノ時間過度ニシテ爲メニ怠慢及ヒ不正當ノ事ヲ爲スノ弊ヲ致ス等)是ナリ茲ニ一ノ中隊アリ其能力毎時他ノ中隊ニ及ハス或ハ又他ノ中隊ト同ク必要ノ點ニ達スル能ハス而シ其ノ此ノ如キヲ致スコト他ニ理由アルニ非スシテ其咎又全ク中隊長ニ在ルトキハ其長官(大隊長若シハ聯隊長)ハ速ニ之ヲ譴責セサルヘカラス一既ニ之ヲ譴責スルモ其中隊長猶ホ獨立シテ其隊ヲ教育シ及ヒ指揮スルコト能ハサレハ是レ其人其職ニ副ハサルナリ」若シ大隊長ニ於テ此ノ如キ中隊長ヲ庇護シ(例ヘハ之ヲ其大隊中ニ留メント欲スルノ意アリテ)自ラ代リテ其一部ノ教育ニ任シ他隊ト併行セシメント欲スルモ決シテ聽スヘキニ非サルナリ

聯隊中ノ各大隊ニ於テスル教育ニ關シテハ聯隊長ヨリ其大隊長ニ其教育ノ自由ヲ與フルコト猶ホ中隊教育ニ關シ大隊長ノ中隊長ニ於ケルカ如シ」此教育ニ關シ大隊長ノ主要ナル任務ハ其部下ノ中隊長ヲ教育スルコト是ナリ而シテ其教育ハ四個ノ中隊ヲシテ戰術上ノ目標ニ從ヒ相助ケテ同一ノ運動ヲ爲サシムルニ在リ」又之ヲ爲スニ冗長ノ訓示若シハ數多ノ命令ヲ要セシムルコトアルヘカラス蓋シ戰時ニ在テハ決シ

テ此ノ如キ訓示命令ヲ恃ミ得ヘキモノニ非サルナリ

聯隊長ノ其聯隊ヲ教育スルモ亦大隊長ノ大隊教育ニ於ケルト同一ノ目標ニ從事スル者ナリ

第三 學科

將校團ニ於テ教育スル主要ナル學科左ノ如シ

冬季作業 冬季作業トハ大中少尉其家ニ於テ軍事上ノ問題ニ答案ヲ草スルコトニ

シテ即チ新兵入隊ノ時期ヨリ始メ冬月間之ヲ爲スモノナリ

此作業ノ目的ハ軍事上ノ事物ニ就キ得失ヲ考ルニ在テ兵學ヲ修ムルニ最モ緊要ナルモノトス

問題ハ勤務上若シハ戰術上ノ範圍ヨリ撰ヒ其難易ハ作業者ノ勤務年數、階級、經驗ニ適合セサル可ラス

青年將校ニハ先ツ各其兵科ノ操典、軌典、教範等ヲ諳識シ且ツ其理義ニ通曉セシムルヲ必要トス故ニ之ニ望ムニ其未タ爲シ能ハサル批評的問題ヲ以テセスシテ先ツ此諸規則ノ研修ニ須要ナル問題ヲ以テスヘシ

之ニ反シテ古參將校ニハ其レヲ判定テ下サシムルニ須要ナル問題ヲ課スヘシ例ヘハ新兵ヲ教育シタル將校ニハ新兵教育ニ適當ナル方法如何其他中隊ノ野外勤務、

射的、體操及ヒ兵卒學科ノ教育ニ適當ナル方法如何等ノ問題はナリ
戰術的問題ハ一ノ戰況ヲ假想シ其範圍内ニアル一枝隊ノ處置ヲ答解セシムルモノト
ス故ニ將校ノ階級ニ應ジ兵數ヲ規定スルコト概テ左ノ如シ

- 一 少尉ノ爲メニハ凡ソ步兵一大隊騎兵二小隊
- 二 中尉ノ爲メニハ凡ソ步兵二大隊騎兵一中隊砲兵一中隊
- 三 大尉ノ爲メニハ凡ソ混成一旅團

青年將校ニハ前ニ記載セシヨリ尙ホ寡少ナル枝隊ノ運用ヲ答解セシムルヲ利益アリ
トス

問題ヲ作ルニハ各作業者ヲテ後來戰場ニ於テ身自ヲ爲スヘキ施爲ヲ此作業ニ於テ
準備セシムルコトニ注意スルヲ要ス故ニ實戰ノ狀況ヲ現出シ而シテ其眼目ハ單簡ニ
其戰團中ノ某一部分ニ限界スルヲ善トス例ヘハ得タル所ノ某戰況ニ依リ爲スヘキ決
斷及ヒ其決斷ヲ爲シタル理由、某決斷ヨリシテ下ス命令及ヒ其命令ヲ下シタル理由、
戰團ノ配布及ヒ展開等

問題ハ明瞭ト綿密トヲ備フルヲ要ス而シテ某戰況ニ基キ一ノ決斷ヲ爲スヘキカ或ハ
部隊ヲ部署スヘキ如キ場合ニ在テハ實戰ニ在テ知リ得ルト同シキ程度ニ敵ノ狀況ニ
就テ知ルヲ得セシムルヲ緊要トス

問題ハ成ル可ク其衛戍地近傍ノ土地ヲ利用スルヲ善トス然ルトキハ各自ノ希望ニ依
リ實地ニ就キ其地形ヲ研究スルコトヲ得ルヲ以テナリ

總テ問題ハ唯作業者ヲシテ深ク其事ヲ熟知セシムルノミナラス之ニ關シテ自ラ適否
ヲ判斷セサルヲ得サラシメ又作業ヲシテ長キニ涉ラシノサルヲ主トシテ之ヲ作ルヘ
シ

將校ノ分遣中(諸學校若クハ外國等)ニ得タル經驗モ亦冬季作業ノ問題ト爲スヲ得
若シ之ヲシテ講話セシムレハ尙ホ最モ目的ニ適フ者トス

講話 講話ハ將校團長ノ命令ニ因リ部下タル若干ノ將校ヲシテ其將校團ニ於テ之
ヲ爲サシムル者トス

此問題ハ將校各自ノ智識ト經驗トノ度ニ應シテ各別ニ之ヲ撰擇スルヲ要ス而シテ其
問題ト爲スヘキモノハ有名ナル戰團ノ事跡即チ一ノ戰場、攻城、或ハ其一部分、戰用
材料等ノ論究、及外國軍ノ編成、武器材料、及軍制ノ變革等ノ範圍ヨリ撰フモノトス
其最モ價值アルハ各自直接ニ關係スル事業ニ就キ特ニ識見ヲ述ルモノトス
戰史ヲ研修セシムルノ問題ハ甚ダ有益ナリ而シテ最モ左ノ二項ニ注意スルヲ要ス

- (一) 作業者ヲシテ必要ノ圖書ヲ得セシムルヲ
- (二) 問題ノ範圍廣大ニ過キサルヲ

戰史ヲ研修スルニハ左ノ如クスルヲ有益ナリトス即チ研修者先ツ問題中各個ノ景況ニ就キ身ヲ其處置者ノ位置ニ厝キ乃チ當サニ自ラ問フヘシ之ヲ處置スル如何スヘキ之ヲ部署スル如何スヘキト而シテ自ラ此間ニ答ルコトヲ筆記スヘシ而シテ之ヲ古人當時ノ決心處置ニ比較シテ其當否ヲ稽査スヘシ

此ノ如ク戰役中一部分ノ景況ニ就キ詳細ニ研修セシムルハ其戰役ノ全部ニ就キ大略ヲ説述セシムルニ愈ル者トス

此講話ナルモノハ先ツ其講者ニ裨益スル者トス若シ其講話能ク人ヲ獎勵シ及ヒ教誨スルコトアラハ聽者モ亦大ニ利益ヲ享クル者ナリ故ニ講者ハ陳套ノ談ヲ避ケ新奇ヲ以テ聽者ノ耳ヲ悅ハシメサルヘカラス若シ其講話ニシテ衆人熟知ノ事ヲハ聽者ハ毫モ利益ナク又快樂ナカルヘシ然レトモ縱令衆人熟知ノ事ナルモ若シ講者ニシテ左ノ三者ヲ所有セハ亦聽者ヲ悅ハシムヘキナリ曰ク卓見、經驗及ヒ蘊奧ヲ究メタルノ講話ノ方法ハ其効力上ニ大ナル關係ヲ有スル者ナリ能ク聽者ヲ感動セシムルコトハ各人均シク之ヲ爲シ得ヘキ者ニ非ス然レトモ其レヲ明瞭正確ニ講話セシムルコトハ決シテ望ミ得ラレサルノ事ニ非サルナリ

兵棋 兵棋ハ統裁其宜ヲ得ルトキハ最モ有益ナル課業ナリトス

兵棋ハ種々ノ戰況ヲ示シテ説明スルモノナリ故ニ之ヲ行フ者百般ノ思考ヲ勞セサル

可ラス而シテ戰術上操典上及ヒ其他總テ軍事上ノ事項ヲ諳識セサル可ラスト云フ思想ヲ惹キ起シ來ル蓋シ種々ノ戰況之ニ刺激ヲ與レハナリ」就中殊ニ決斷ヲ迅速ニスルヲ學ブチ必要トス

統裁官ハ此決斷ノ遲速ニ注意シ又若シモ筆記ノ命令ヲ與フルトキハ其命令ノ簡明確切ナルコトニ注意スルヲ要ス」報告モ戰時筆記ヲ要スル場合ナルトキハ亦之ヲ筆記セシム

精神上ノ關係ハ極メテ貴重ナル者ナルモ平時ノ演習ニ於テハ通常之ヲ十分ニ顯ハスニ至ラス故ニ統裁官ハ兵棋演習ノ時十分ニ之ヲ顯ハサシメ以テ其兵棋ヲシテ戰闘ノ實況ヲ示サシメサル可ラス

兵棋ハ又統裁官ニ於テモ其修得スル所掛カラズ

高級上官ハ兵棋ヲ爲スニ當リ機會アル毎ニ時々之ニ莅ミ統裁ノ適否ヲ認識スルコト必要ナリ若シ此統裁適當ナラサレハ兵棋ハ有益ナラスシテ反テ有害ナルコトアリ兵棋ニ必要ナル地圖ヲ調製スルニハ製圖又ハ測量ニ熟練セル其將校團ノ將校ヲ使用スルヲ得

地形測量 此測量ハ機械ヲ以テシ或ハ目測ヲ以テスル者コト地形及ヒ之ニ關スル軍事上ノ監察ヲ銳利ナラシメ又正當ニ各種ノ地形ヲ利用スルノ智識ヲ進歩セシム衛戍

地ノ近傍ニシテ未タ測量セサル地ヲ假ニ測量セシムルハ最モ必要トス但凡ソ一日行程ノ距離ヲ以テ限トス此作業ヲ受ケタル將校ハ爲メニ大ナル利益ヲ得ヘシ

現地上ノ講話 現地上ニテノ講話ハ將校團長之ヲ統裁ス其部下將校ハ悉ク此演習ニ與カル者トス但漸ク以テ更ニ之ニ與ラシメ軍隊ノ勤務ヲ妨ケサルヲ要ス

此講話ニ主トスル所ノ者ハ統裁官ヨリ與ヘラレタル單一ナル方略ニ基ツケル戰爭上ノ狀況ナリ此狀況ヲ講話スルハ實地ニ於テ爲ス者ナリ之ヲ換言スレハ則チ地形上ノ兵棋ナリ

而シテ統裁官ハ其演習ニ參與スル將校ヲ唯一方ノ軍ニ使用シ敵ノ一方ハ自ラ之ニ任ズヘシ果シテ此ノ如クナレハ必ス良好ノ結果ヲ得蓋シ此方法ニ據ルトキハ將校ヲシテ勉メテ多分ニ修習セシムルコトヲ得統裁官ノ教育上モ亦此方法ヲ便利トス

凡ソ此講話ハ廣大ニ過キサル單純ノ狀況ノミヲ用ヒ步兵砲兵ニ在テハ殊ニ戰術上ノ事ヲ用フヘシ

例ハハ步兵ニ在テハ敵ノ守備セル陣地ニ對スル步兵大隊(聯隊又ハ旅團)ノ展開、同ク侵襲、敵ノ陣地ヲ奪領シ之ニ守備ヲ設ルコト、敵ヲ追撃スルコト、陣地ノ設備、占領、防禦、敵ノ未タ決死ノ侵襲ヲ爲サ、ルニ先ク陣地ヲ退却スルコト、敵ノ侵襲ヲ來ル瞬間ニ攻勢ニ轉シ逆撃スルコト等

步兵ノ講話ニ騎兵若クハ砲兵ノ若干部隊ヲ假想スルハ當然ノ事ナリトス砲兵ノ講話ニモ常ニ步兵或ハ騎兵ヲ假想シ或ハ又屢々此兩兵科ヲ假想スルコトアルヘシ

砲兵ニ在テハ例ハ陣地ノ選定即チ總指揮官ヨリ與ヘラレタル任務、及ヒ即時瞬間ノ戰況ヲ顧慮シツ、發射陣地ヲ選定スルコト(要スレハ肩塔ヲ設置スルコト)其他戰鬪ノ經過中目標ノ選定、試射、射撃ノ種類、目標變換、發射陣地ノ變換、放列第二線及ヒ梯隊位置ノ選定彈藥ノ補充等ヲ講話スヘシ

此講話ハ兵棋ヲ圖上ニ於テ演習スルト同シ殊ニ砲兵ニ必要ナリ蓋シ砲兵科ハ單獨ニテ野外演習ヲ爲スコト能ハサルカ故ナリ

該此際將校ノ使用スヘキ軍隊ニハ制限ナカルヘカラス(例ハ古參ノ大尉ニハ凡ソ步兵一乃至二大隊騎兵一中隊砲兵一乃至二中隊ヲ指揮セシムル等)

騎兵ニ在テハ搜索勤務ヲ以テ講話ノ主ト爲スヘシ

例ハ茲ニ一ノ假想セル戰況ヲ基礎トシテ斥候ヲ發セシニ其斥候ハ何レノ道路ヲ取ルカ、敵ニ關シテ何ヲ見タルカ、又其見聞セルモノニ關シテノ決定(其行軍縱隊ノ長サ若クハ其露營地ノ廣サニ由テ敵ノ兵員ヲ測定スル等)敵ノ前哨ノ位置ヲ知ルコト(此前哨ヲ知ルニハ通常ノ前哨ト唯行軍中ノ前哨トヲ判定スヘシ)戰地ニ於テ作ルヘキ報告ノ適當ナル記載法、報告ヲ適當ニ送達スルコト、敵軍發見後ノ斥候ノ動作、或

ハ敵ヨリ發見セラレ而シテ壓迫セラレタル後ナニ爲スヘキ動作、夜間ニ爲スヘキ斥候ノ動作等

尙ホ又地形之ヲ許サハ步兵騎兵砲兵ニ對スル襲撃、敵ノ動搖セルト否トニ關スル種々ノ動作、敵ノ不意ヲ撃ツコト、伏兵、輜重及ヒ諸種ノ運搬ニ對シテノ攻撃、鐵道及電信ノ毀壞(一時)等

工兵ニ在テハ左ノ事項ヲ講話ス即チ各個ノ地點或ハ全陣地ニ防禦工事ヲ施スコト、橋梁ノ架設、修理若クハ破壞、道路修繕、縱隊路ノ選定若クハ開設、鐵道、電信ノ毀壞(一時)及其破壞(永久等)

輜重兵ニ在テハ輜重梯隊、諸縱列或ハ大小行李、監視隊ノ指揮、休憩、馬糞場ノ位置撰定其警戒法等ニ就テ講話スヘシ

高級上官ハ時々此講話ニ在ムコトヲ怠ル可ラス

各將校ハ智識ト眼界トヲ遠大ニ進ムル所ノ學理上ノ教育ヲ悉ク修得シ且ツ遍ク之ヲ利用セサル可ラス若シ然ラサレハ將來其身ヲ高等ノ位置ニ適合セシムルコト能ハサルヘシ

第四 體育

體操劍術及射的ノ熟練ハ將校ニ缺ク可ラカサル者ニシテ殊ニ青年將校ハ適當ナル軍

友ヨリ教授セラル、者トス

聯(大)隊長ハ此教育ノ主任ヲ成ル可ク且山學校ノ修學ヲ經タル先輩將校ニ委任スヘシ

此先輩將校ノ青年將校ヲ教導スルハ猶ホ青年將校カ兵卒ニ教授スル如クスヘシ

結尾

若シ各將校ニシテ著實ニ間斷ナク自己ノ教育ヲ増進スルコトニ勉勵スルコトアラソシハ各長官ノ其部下ノ爲メニセシ經營モ徒勞ニ歸シ結果ヲ見スシテ終ラソノミ故ニ各青年將校ハ常ニ左ノ事ヲ肝銘スヘシ曰ク其址根底ヨリ級ヲ逐ヒ上進シ其教育ヲ増廣スル事、蓋シ此ノ如クナラサレハ數多ノ困難ナル任務即チ平時殊ニ戰時ニ軍隊カ將校ニ要求スル所ノ任務ヲ盡ス能ハサル可シ且ツ將校ノ其教育ニ勉ムルハ當ニ其進級ノ爲メノミナラス即チ其榮譽ノ爲メ及ヒ其父祖ノ國ノ爲メニシテ若シ此教育ヲ解レハ即チ其義務ヲ缺ク者ナレハナリ

● 監督部軍吏部衛生部獸醫部將校相當官教育令

明治二十二年六月
陸達第九十八號

監督部軍吏部衛生部獸醫部將校相當官教育令別冊ノ通被定

(別冊)

監督部軍吏部衛生部獸醫部將校相當官教育令
監督部軍吏部衛生部獸醫部將校相當官ノ教育ハ其精神及旨意ニ於テハ將校團教育令
ニ異ナルコトナシ然レトモ各其要スル科目ニ至テハ素ヨリ之ト異ナリ故ニ其概目ヲ
掲グルコト左ノ如シ

監督部

術科

實地勤務

學科

課題作業

講說

應用作業

軍吏部

術科

實地勤務

學科

課題作業

講話

應用講究

衛生部

術科

隊附勤務

病院勤務

學科

講說

標示

實驗

對策

專攻課業

獸醫部

術科

隊附勤務

學科

對策

講話

實地講說

實驗

●陸軍機動演習條例

明治二十二年十月
陸達第五百十七號

陸軍軍隊機動演習條例別冊ノ通り定メラル

(別冊)

陸軍軍隊機動演習條例

總則

第一條 機動演習ハ之ヲ分テ二トス

師團以下ノ演習ニシテ旅團長或ハ近衛都督、師團長ノ統監スルモノ若シハ近衛都督、師團長ノ指揮スルモノヲ小機動演習ト云

師團若シハ二師團以上ノ演習ニシテ監軍之ヲ統監スルモノヲ大機動演習ト云

第二條 機動演習ニハ輜重諸梯隊ヲ編制セサルヲ通則トス

第三條 休憩日ト演習前後ノ路次日數ハ演習日數ノ中ニ算セス

小機動演習

第四條 小機動演習ハ師管内ノ作戰計畫ヲ基礎トシテ行フモノニシテ之ヲ左ノ三期ニ分ツ但シ各期ノ日數ハ彼此伸縮スルヲ得

第一期 凡四日間

此期ハ連合枝隊ノ演習ニシテ旅團長之ヲ統監シ步兵砲兵各聯隊長之カ指揮ヲ司ルモノトス但シ其他ノ中佐及古參少佐ヲシテ之カ指揮ヲ爲シシムルコトアルヘシ

近衛都督、師團長ハ騎砲工輜重兵ヲ各步兵旅團ニ配當シ旅團長ハ之ヲ各步兵聯隊ニ配合シ以テ連合枝隊ヲ編制ス

第二期 凡二日間

此期ハ混成旅團ノ演習ニシテ近衛都督、師團長之ヲ統監シ兩旅團長之カ指揮

ヲ司ルモノトス但古參大佐ヲシテ之カ指揮ヲ爲サシムルコトアルヘシ

近衛都督、師團長ハ騎砲工輜重兵ヲ各步兵旅團ニ配合シ以テ混成旅團ヲ編制ス

第三期 凡二日間

此期ハ假設敵ニ對スル師團ノ演習ニシテ近衛都督、師團長之カ指揮ヲ司ルモノトス但古參旅團長ヲシテ之カ指揮ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第五條 小機動演習ハ各隊ノ野外演習ニ繼續シテ行フモノトス

第六條 近衛都督、師團長ハ毎年六月三十日迄ニ演習ノ計畫及ヒ日課豫定表ヲ監軍ニ進達シ監軍ハ之ヲ

皇帝陛下ニ奏上ス

第七條 演習終ルノ後近衛都督、師團長ハ演習記ヲ作り監軍ニ進達シ監軍ハ之ヲ

皇帝陛下ニ奏上ス

大機動演習

第八條 大機動演習ハ大作戦ノ計畫ヲ基礎トシ小機動演習ニ繼續シテ行フモノニシテ其日數ハ凡二日間トス

第九條 此演習ヲ行フヘキ近衛、師團ハ小機動演習ノ第二期ノ演習ヲ行ハサルモノトス

第十條 此演習ニハ豫備役後備役諸兵ヲ召集スルコトアルヘシ

第十一條 大機動演習ハ監軍之ヲ陸軍大臣參軍ニ合議シ
 皇帝陛下ニ奏上シ裁定ノ後其年三月一日迄ニ此演習ヲ行フヘキ近衛都督、師團長
 ニ下命ス

第十二條 演習終ルノ後監軍ハ演習記ヲ作り之ヲ
 皇帝陛下ニ奏上ス

●陸軍機動演習教令

明治二十二年十月
陸達第五百十七號

陸軍軍隊機動演習教令別冊ノ通定ム。

陸軍軍隊機動演習教令

第一條 此教令ハ陸軍軍隊機動演習條例ニ基キ施行ノ順序ヲ規定スルモノナリ

第二條 演習地及演習日割ハ小機動演習ニ在テハ近衛都督、師團長大機動演習ニ在
 テハ監軍之ヲ定ムルモノトス

第三條 小機動演習ノ施行ニ先テ近衛都督、師團長ハ機動演習條例第六條ニ基キ左
 ノ書類ヲ監軍ニ進達スヘシ

一 演習ノ一般方略及地圖

此方略及地圖ハ機動演習條例第四條第二第三期演習ニ係ルモノニ限ル

●陸軍軍隊機
動演習教令中
改正

明治二十三年
七月
陸達第四百十
七號

陸軍軍隊機動演習
教令中ノ通改正
スルハ第八條中
ニ演習實施報告
ノ九字ヲ削リ一
演習ノ三ノ字ニ
改ム、第二項ニ
改ム、第三項ヲ
削リ、第四項ヲ
改ム、特別方略
師團、旅團、枝
隊ノ通過及ヒ購
習ノ經過ヲシテ
演習ノ實施報告
ニシテハ、演習
ノ實施報告ニシ
タルヲ示シテ下
載スルモノトス
第九條中「小機
動演習實施報告」
ニ「小機動演習
ノ實施報告」ニ
改ム、乙表步兵
第一旅團同第二
旅團本區畫中「
旅團本

一 演習日課豫定表 甲表ノ製式ニ據ル

二 演習團隊編制表 乙表ノ製式ニ據ル

第四條 大機動演習ハ監軍之ヲ行フヘキ團隊及一般方略、演習地並演習期日ヲ畫定
 シ

皇帝陛下ニ奏上シ裁定ヲ仰シモノトス

第五條 監軍ハ大機動演習ノ下命ト同時ニ一般方略及演習團隊ノ集合地ト其日限ト
 ナ密令ス

第六條 大機動演習ニ與ル近衛都督、師團長ハ其集合地及日限ニ基キ小機動演習第
 一第二期ノ演習ヲ計畫シ之ヲ監軍ニ進達スルコト第三條ニ同シ

第七條 大機動演習ノ審判官ハ監軍之ヲ定メ
 皇帝陛下ニ奏上ス

第八條 小機動演習終ル後テ近衛都督、師團長ハ短簡ニ演習實施報告ヲ作り之ヲ監
 軍ニ進達スヘシ但演習後三十日以内ニ發送スルモノトス

此報告ハ概テ左ノ項目ニ據リ記述スヘシ

演習ハ總テ豫定ノ如ク行レシ乎或ハ之ヲ變更セシ乎又タ何ノ理由アリテ變更セシ
 乎

部ニテ旅團司令部
ニ改メテ表總計
ノ前ニ小計レノ
區畫ヲ設ケ又總計
ノ大ニテ分比例
シテ各隊毎ニ隊間
ニ此千分比例ノ區
畫迄横線ヲ畫スヘ

演習中給養一般ノ報告並經驗ニ由テ得タル意見

人馬衛生一般ノ報告並人馬ノ患者員數表丙表ノ製式ニ據ル

駄馬運搬具、被服裝具、武器ニ就キ特別ノ著意ヲ促シタル事件及之ニ關スル意見

第九條 大機動演習ヲ行ヒタル近衛都督、師團長ハ小機動演習實施報告ト大機動演

習ニ係ル記事トチ各別ニ調製シ之ヲ監軍ニ進達スヘシ但演習後四十日以内ニ發送

スルモノトス

大機動演習ノ記事ハ小機動演習ト大小ノ差異アルノミニシテ其記述スヘキ項目ハ

概テ異ナルコトナシ

第十條 皇帝陛下大機動演習ニ臨御アレハ統監ハ先ツ演習團隊編制表、一般方略、特

別方略及兩軍指揮官ノ作戰命令ヲ奉呈ス其作戰命令ニハ尙ホ軍隊區分ヲ別記シ之

ニ大隊長及獨立部隊長以上ノ姓名ヲ記入シタルモノニ通テ添フ

第十一條 小機動演習ニ在テモ

皇帝陛下ノ臨御アルトキハ諸書類ヲ奉呈スルコト總テ大機動演習ノ時ニ異ナルコ

トナシ

第十二條 觀兵式ノ執行ニ先テ統監ハ閱兵式整列隊形及分列式行進隊形ノ略圖ト其

執行命令トチ

皇帝陛下ニ奉呈ス但分列式行進ノ順序ニ從テ記載シタル中隊長以上ノ姓名書ニ通

テ添フヘシ

第十三條 皇帝陛下觀兵式場ニ臨御アレハ統監ハ觀兵式ニ列スル團隊ノ現員表ヲ奉

呈ス

第十四條 野戰電信ヲ機動演習ニ使用スルト否トハ小機動演習ニ在テハ近衛都督、

師團長大機動演習ニ在テハ監軍之ヲ定ムルモノトス

第十五條 演習ニ使用セシ器具材料ノ破損及ヒ演習ノ爲メ損害シタル田畑ノ賠償金

ハ總テ演習費ヲ以テ支辨スルモノトス

第十六條 陪觀將校ニ特別ノ徽章ヲ要スルトキハ統監之ヲ定ムルモノトス

第十七條 陸地測量部ニ於テ既製ノ地圖アル土地ニテ小機動演習ヲ行フトキハ近衛

都督、師團長ハ其區域ト地圖ノ所要葉數トチ定メ之ヲ毎年五月一日迄ニ參謀本部

ニ請求スヘシ

其地區未タ測量セサル土地ナルトキハ部下適當ノ士官及下士ヲシテ之ヲ測量セシ

メ而シテ之ヲ製版スルコトモ亦近衛、師團ニ於テスヘシ然レトモ要スルトキハ其

製版ニ限り之ヲ參謀本部ニ請求スルコトヲ得但地圖ノ所要葉數ヲ定メ毎年六月一

日迄ニ其原圖ヲ出スモノトス

既製圖ノ數葉ヲ一面ノ疊圖トナスコト若干圖紙ノ觸接セル各部邊ヲ集メテ一面ノ疊圖トナスコト製圖ヲ伸縮スルコトモ亦之ヲ參謀本部ニ請求スルコトヲ得

第十八條 大機動演習ニハ通常梯尺五萬分一ノ特別圖ヲ調製スルモノトス

第十九條 大機動演習ニ用ユル地圖ハ監軍其區域ト地圖ノ所要葉數トヲ定メ其地區未タ測量セサル土地ナルトキハ毎年二月一日迄又陸地測量部ニ於テ既製ノ地圖ヲ

ル土地ナルトキハ同四月一日迄ニ之ヲ參謀本部ニ請求ス

第二十條 參謀本部ハ機動演習用ノ地圖ニ係ル前諸條ノ請求ヲ受クルトキハ製版費ヲ以テ其需メニ應スルモノトス

第二十一條 機動演習ノ地圖ニ係ル費用ハ總テ演習費ヲ以テ支辨スルモノトス

第二十二條 官版ノ地圖ヲ私立ノ製圖所ニ依托シ之ヲ再版スルコトヲ禁ス

近衛(第何師團)小機動演習日課豫定表

月日調製

(各欄△ハ赤○ハ藍●ハ黄×ハ緑□ハ紫)

十	月	十	月	一	月	一	月	一	月	一	月	一	月	一	月	一	月	一	月
六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五
<p>志野△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△ 志野原△</p>																			
<p>八幡瀨野長柄山附近 千田松野附近 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附 近多喜附</p>																			
<p>合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連 合 步兵第一聯隊二連</p>																			
<p>合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連 合 旅團二連</p>																			
<p>近 附 原 茂</p>																			
<p>近 附 原 茂</p>																			
<p>本納同上佐八幡瀨野 茂原同上野會我市川 大綱船橋歸營 官一東金歸營 長南同上千葉歸營 喜同上千葉歸營</p>																			

色ハ各隊各箇ノ野外演習(藍色)ハ連合小枝隊ノ對抗演習(黃色)ハ混成旅團ノ對抗演習(綠色)ハ師團ノ假設敵演習(紫色)ハ歸路各隊各箇ノ經過路線ノ
 日課表ニ表ス
 動員ノ日課表ニ各隊各箇ノ野外演習ヲ記入スルハ該機動演習地ニ集合ノ日割地點及ヒ經過路線ヲ示スニアリ
 十五聯隊ハ高崎ヨリ東京迄ハ汽車ニテ經過セシムル積リ
 隊ノ區畫ニ限リ往復ノ經過路線ト日割ヲ記載セサルハ各部隊ノ物品運輸ノ爲メ各部隊ニ配合スヘキヲ以テナリ

●陸海軍聯合大演習條例

明治二十二年二月
陸達第十八號

陸海軍聯合大演習條例別紙之通定メラル

(別紙)

陸海軍聯合大演習條例

- 第一條 陸軍海軍ノ連合操練之ヲ陸海軍聯合大演習ト云フ
- 第二條 聯合大演習ハ 天皇親臨シテ之ヲ統監ス
- 第三條 聯合大演習ハ參軍勅ヲ奉シ作戰計畫ヲ基礎トシテ之ヲ規畫シ且其施行ヲ統裁ス
- 第四條 聯合大演習ノ規畫ニハ陸軍大臣海軍大臣及ヒ監軍各職域ニ應シテ之ニ參與シ又聯合大演習ノ成績ニ就キ各職域ニ應シ其意見ヲ參軍ニ申告ス
- 第五條 聯合大演習ニ係ル軍令ノ傳宣ハ戰時ノ制規ニ依ル
- 第六條 聯合大演習ハ陸軍一師團以上海軍一鎮守府若クハ一艦隊以上ノ兵力ヲ用テ對抗セシムルヲ例トス時宜ニ依リ或ハ其一ヲ假設スルコトアリ
- 第七條 聯合大演習施行ノ年ハ陸軍大機動演習及ヒ海軍大演習ハ之ヲ行ハス但シ陸海軍ノ一ヲ假設セシトキハ其假設ニ係ル陸軍又ハ海軍ハ此限ニ非ス

●六週間現役兵教育訓令

明治二十三年六月
監軍訓令第三號

官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニアル者ヲシテ六週
間ノ現役ニ服セシムル所以ノモノハ帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳マテノ男
子ハ總テ兵役ニ服スルノ權理ヲ有シ隨テ護國ノ義務アルモノナレハ此臣民ヲシテ必
任義務ノ精神ヲ涵養セシムルハ小學校ノ教職ニアリ國家教育ノ職務ヲ負擔スル者ノ
任ナレハナリ然ハ則チ之カ教育ニ任スル者ハ先ツ自ラ其精神ヲ養ヒ軍隊勤務ノ梗概
ヲ學ハサルヘカラス故ニ此教育ハ隊伍ノ運動武器ノ使用及行軍ノ概畧ヲ授ケ軍隊精
神ヲ養成シ軍紀ニ慣習セシムルヲ以テ目的トス各步兵聯隊長ヲシテ此意ヲ體シ教育
科目ヲ定メシムヘシ

●軍隊教練ノ要旨

明治二十二年二月
監軍訓令第一號

軍隊教練ノ主旨ハ軍人ヲ養成スルニ在ルコト今新ニ論スルヲ俟スト雖トモ之ヲ既往
ニ徵スルニ其方向動モスレハ有形上ノミノ一方ニ傾シカ如キ感ナキ能ハス斯ノ如キ
ハ教練ノ主旨ヲ得タルモノトナス可ラス今此教練ナルモノハ無形上ニ於テ如何ナル
關係ヲ有スルモノナルヤノ概畧ヲ別冊ニ示シ以テ其方向ヲシテ偏倚スルコト勿ク其

欠

MISSING

第二 教練ハ軍紀ニ慣習セシムルニ最モ首要ナル補助品タルコト
凡ソ物ハ小ヨリ大ニ及シ簡ヨリ繁ニ入ルヘキハ理ノ當然ニシテ教練モ亦斯ノ如シ
先ツ各個教練ニ熟達セシメ遂ニ一團隊ノ一致ヲ圖ラサルヘカラス即チ各個教練ニ
懇切ナル教授ヲ爲シ熟達セシモノヲ以テ之ヲ集合スルトキハ一團隊ノ一致甚々容
易ナルモノトス例セハ某器械ヲシテ其運轉ヲ精確ナラシメント欲セハ先其各部分
ノ製作ヲ確實ニセサルヲ得サルカ如キ之ナリ而シテ此各個教練ト同時ニ兵卒ノ身
體ハ絶ヘス上官ノ監視ヲ受ルコトヲ自覺セシメ以テ軍紀ニ慣習セシムルヲ要ス
部隊ノ演習ニ於テハ上官ハ部下兵卒等ノ身命ヲ主宰スル所ノ神ナルコトヲ兵卒ニ
了解セシム好時機ナリトス故ニ指揮スル所ノ上官ハ些少ノ過失モ之ヲ看過シ姑息
ノ動作ヲシテ習ヒ性ヲラシムル如キコトアルヘカラス矯正ト督責トヲ以テ之ヲ控
御シ偷安ノ情ヲ未萌ニ抑制シ遂ニ兵卒ヲシテ上官ハ軍紀ノ淵藪タルノ感覺ヲ惹起
シ我身命ヲ上官ノ意ニ委任シ自ラ軍紀ニ慣習スルニ至ラシムヘシ之カ爲メ一ノ動
作終ル毎ニ過失アレハ之ヲ矯正シ然ル後ニ非レハ決シテ次ノ動作ニ移ラシムヘカ
ラサルヲ以テ教練ノ原則トナスヘシ
之ニ反シテ上官若シ部下ノ過失ヲ看過スルトキハ直チニ其尊敬ヲ失シ且ツ教練ニ
依テ軍紀ノ度ヲ高ムルコトナク却テ之ヲ損害スル媒助トナルニ至ルヘシ豈恐レサ

ルヘケンヤ
 凡ソ教練ノ順序ハ各個教練ヨリ部隊教練ニ進ムヘシト雖トモ又兵卒ノ熟否ニ依テ若干ノ階級ニ區分シ其不可ナル級ニハ演習ノ回数ヲ増加シ之ニ反シテ進歩セシ級ハ其勉強ヲ賞スル爲メ適宜ニ演習ノ時間ヲ減シ以テ名譽心ヲ喚起セシムヘシ是等ノ所置ハ改正内務書ニ依テ擴張セシ中隊長ノ職權内ニアリテ存ス
 中隊長ハ我カ職權ノ範圍内ニ於テ大隊長ノ監視ノ下ニ立テ自ラ教育ノ責ニ膺リ部下ノ士官下士ヲ適當ニ職務ニ就カシムルヲ要ス
 大隊長ハ聯隊長ノ意圖ニ基キ適當ニ此教練ノ方法ヲ監視シ而シテ聯隊長ハ大隊長大隊長ハ中隊長ノ職權ヲ擴張スルコトニ注意スヘシ
 總テ士官下士タルモノハ指揮官タルト同時ニ教官タル性質ヲ有セサルヘカラス尙且ツ部下ニ教授スルハ半ハ自己ノ學術ヲ研究スルモノナリ豈夫レ兵卒ノ爲ノミナランヤ

●擔架術教育規則

明治二十年三月 陸達第十八號

擔架術教育規則別冊之通定ム

(別冊)

擔架術教育規則

總則

- 第一條 此規則ハ戰場ニ於テ傷者ヲ運搬スル學術ヲ教授スル爲メニ設クルモノトス
- 第二條 歩兵及ヒ砲兵隊ニ於テ其下士兵卒若干名ヲシテ之ヲ修業セシムルモノトス
選拔
- 第三條 毎年擔架術ヲ修業セシムヘキ人員ハ歩兵聯隊ニ一等軍曹一名二等軍曹二名砲兵聯隊ニ一二等軍曹三名歩砲大隊ニ上等兵一名歩兵中隊ニ兵卒三名砲兵中隊ニ一名トス
上等兵ヲ出タス歩兵中隊ニハ兵卒二名トス
- 第四條 大隊長ハ下士中隊長ハ上等兵現役一箇年ヲ終ヘタル者ヲ選拔シテ聯隊長若クハ大隊長ニ具申スルモノトス
- 第五條 中隊長ハ現役一ケ年ヲ終ヘタル一等卒若クハ一等卒ト爲ルヘキモノニシテ沈勇懇篤精力アリ且讀書習字ヲ爲シ得ル者ヲ選拔シ名簿ヲ製シ大隊長ニ呈スルモノトス
- 第六條 大隊長ハ中隊長ノ進呈シタル名簿ニ就キ審査ノ上聯隊長ノ認可ヲ得テ中隊長ヲシテ擔架術修業ヲ命セシム
- 第七條 聯隊長ハ大隊長ノ具申ニ依テ之ヲ認可シ教官ヲシテ教授セシム

教育

第八條 擔架術ハ學術ノ二科トス其科目ハ第一表ニ示スカ如シ

第九條 擔架術ノ教授ハ步兵聯隊分遣者クハ分屯隊ハ大隊及砲兵聯隊ニ於テス

但分遣分屯ニ係ル中隊ノ分ハ所屬本隊ニ合シテ之ヲ行フモノトス

第十條 授業期限ハ凡ソ三箇月ニシテ毎年新兵入營ノ期ヨリ始ムル者トス但シ授業時限ハ一日ニ凡ソ五時間トス

第十一條 修業中疾病等ニテ卒業ノ目途ナク之ヲ免除スルトキハ成ルヘク補缺スヘシ

第十二條 聯隊長ハ卒業ノ檢閲ヲ行ヒ卒業證書ヲ附與シ而シテ旅團長ヲ經直砲兵ハ之ヲ所管長官ニ報告スル者トス

第十三條 擔架術修業中ハ衛兵其他ノ諸勤務ハ適宜ニ之ヲ免スルヲ得ヘシ又何等ノ事故アルモ歸省休暇等ハ一切之ヲ許サ、ルモノトス

教官

第十四條 教官及ヒ助教ハ聯隊中ノ醫官及ヒ看護長ヲ以テ之ニ充テ其人員ハ第二表ノ如シ

第十五條 高級ノ教官ハ聯隊長ノ命ヲ受ケ左ニ掲クル二項ノ事ヲ擔任スヘシ

一 學術授業ノ順序ヲ豫定シ又每週施行ノ日課表ヲ製シ且教育ニ關スル進歩ノ景況ヲ聯隊長及ヒ所管軍醫長ニ報告スヘシ

二 卒業ノ期ニ至レハ學術ニ優劣順序ヲ定メ番號ヲ付シ卒業名簿ヲ製シ之ヲ聯隊長ニ進呈ス

第十六條 教官ハ高級教官ノ指圖ヲ受ケ一般ノ教育ヲ擔任シ助教ハ教官ヲ補助シ教育上ノ細目ヲ擔當スルモノトス

復習

第十七條 復習ハ毎年夏期ニ於テ豫備役及ヒ後備軍ノ下士卒中擔架術ヲ修業シタル者ヲ召集シ之ニ現役中ノ擔架術修業者ヲ加ヘ演習ヲ施行ス之ヲ野外演習ト云フ

第十八條 野外演習ハ演習衛生隊ヲ編成シ近衛鎮臺軍醫長ヲシテ師團軍醫長ノ職ヲ行ヒ演習一般ノ指揮ヲ宰ラシム

第十九條 近衛鎮臺軍醫長ハ演習ノ方法ヲ豫定シ其施行ノ地所ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ

第二十條 野外演習中所要ノ部隊ヲ之ニ附屬セシメ戰線ヲ假設シ或ハ假設傷者等ノ用ニ供セシム

第二十一條 野外演習ノ總日數ハ概テ三週間始メ二週間ヲ現役並豫備役中擔架術ヲ修業シタル者ニ充テ終リ一週間ヲ現役並後備軍中擔架術ヲ修

業シタル者ニ充ツテ定則トス然レトモ時トシテ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ
 第二十二條 演習畢レハ軍醫長ハ實施ノ景況ヲ記載シ之ヲ所管長官ニ報告スヘシ
 第二十三條 復習ノ爲メニ召集スヘキ豫備役及ヒ後備軍下士卒ハ師團衛生隊ニ編入
 スヘキ者ノミヲ以テス

第二十四條 演習衛生隊ノ編制方法左ノ如シ

- 一 演習衛生隊ハ師團衛生隊定員ノ半數ヲ召集シ他ノ半數ハ之ニ現役中ノ擔架術修業者ヲ加フ
- 二 演習衛生隊ニ附屬スル士官及ヒ曹長ハ常備隊附他ノ下士ハ現役或ハ豫備役及ヒ後備軍艦員ヲ以テシ或ハ擔架術ヲ修業シタル上等兵ニシテ下士適任證書ヲ所持スル者ヲ以テ此下士勤務ニ充ツ
- 三 演習衛生隊ニ附屬スヘキ衛生部員ハ鎮戢病院或ハ各隊附醫官藥劑官及ヒ看護長卒ヲ以テ之ニ充ツ但看護長卒ハ豫備役及ヒ後備軍ヨリ附屬セシムルコトアリ

第一表

學 科		擔架術教則表	
第一	術 科	第一	術 科
第二	術 科	第二	術 科

人體造構	止血法	擔伍編成
携帶品及解説	人工呼吸術	擔架分隊運動
創傷論	三角繃帶用法	乘架法
傷者一般ノ取扱	卷軸繃帶用法	擔架小隊中隊等ノ運動
創傷處置	徒手運搬法	
一般患者ノ救急法	急製擔架法	

第二表

擔架術教官定員表					
兵 種	隊 員		教 官		助 教
	大 隊	聯 隊	二等軍醫正	一 二三等軍醫	
步 兵	大 隊	聯 隊	一 二三等軍醫	一 二三等軍醫	一 看護長
	大 隊	聯 隊	一 二三等軍醫	一 二三等軍醫	一 看護長
砲 兵	大 隊	聯 隊	一 二三等軍醫	一 二三等軍醫	一 看護長
	大 隊	聯 隊	一 二三等軍醫	一 二三等軍醫	一 看護長

備考 一本表大隊ノ教官助教ハ分屯者クハ分遣隊ニ適用ス

●陸軍武官結婚條例

明治十四年五月
陸軍省達乙第二十五號

陸軍武官結婚條例別冊之通被相定候條此旨相達候事

(別冊)

陸軍武官結婚條例

- 第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ニス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク
- 第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レトモ再服役以上ノ下士並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂部ノ下士卒徵兵令ニ依リ徵集シタル若病卒ヲ除ク及砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得
- 第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戶長ノ調印シタル身元證書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓

中少尉並同等官 六百圓

准士官 八拾圓

下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ

但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖トモ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之
 ナ算シ第七條ノ全額ニ相當セシム
 第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ
 但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ
 第十一條 家計保護金ヲ還附スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ
 第一項 上長官ニ昇進セシ時
 第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時
 第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ル、時
 第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時
 第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時
 第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ
 第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某
年某月日生
年某月何年何ヶ月

某儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)相
 添差出候間御許可被下度此段奉願候也
 年號月日 官 姓 名 印

大政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛
 前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也
 陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

第二號書式 身元證書

使府縣國郡區町村
族籍職業
何某何女(姉)(妹)
某
年某月日生
年某月何年何ヶ月

第三號書式 年號月日

使府縣國郡區町村
戶長アラス
地ハ區長
姓 名 印

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

東京府質議

明治十七年
三月三十四

陸軍武官結婚條例
陸軍武官結婚條例第一條第二項ニ基キ家計保護金ヲ納ムルニ及ハサル儀ト可相心得此旨相達候事
陸軍武官結婚條例第九條但書ニ依リ公債證書ヲ以テ家計保護金ヲ納ムルトキ其價格之儀ハ去ル明治十三年一月大藏省ヨリ各廳爲替方抵當之爲メ相達候價格ニ據リ相納來候處其後國庫金出納規則發布相成隨テ右抵當價格モ消滅シ現今大藏省ニ於テ別ニ實施之價格モ無之趣ニ付自今舊公債證書ハ實額其他之公債證書ハ額面ニ據リ相納候

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也
年號月日 官 姓 名 印

恩給ヲ受クル者ハ家計保護金ヲ要セス

明治十六年十二月
陸軍省達乙第三百三十三號

恩給ヲ受クルノ權利ヲ有シタル者結婚出願スル時ハ陸軍武官結婚條例第十一條第二項ニ基キ家計保護金ヲ納ムルニ及ハサル儀ト可相心得此旨相達候事

公債證書ヲ以テ家計保護金取扱手續

明治二十年十二月
陸軍省總通第八五號次長ヨリ

陸軍武官結婚條例第九條但書ニ依リ公債證書ヲ以テ家計保護金ヲ納ムルトキ其價格之儀ハ去ル明治十三年一月大藏省ヨリ各廳爲替方抵當之爲メ相達候價格ニ據リ相納來候處其後國庫金出納規則發布相成隨テ右抵當價格モ消滅シ現今大藏省ニ於テ別ニ實施之價格モ無之趣ニ付自今舊公債證書ハ實額其他之公債證書ハ額面ニ據リ相納候

様御取計相成度

陸軍武官家計保護金取扱手續

明治十八年五月
陸軍省達乙第四十九號

陸軍武官家計保護金取扱手續別紙之通相定候條此旨相達候事

但明治十五年四月達乙第二十七號達陸軍武官結婚家計保護金取扱概則ハ廢止ス
(別紙)

陸軍武官家計保護金取扱手續

第一條 陸軍武官結婚條例第七條ニ掲クル家計保護金ハ其所管長官ニ差出シ近衛鎮

臺ニ在テハ之ヲ當該監督部ニ移シ該部ハ之ヲ中央司契部若クハ鎮臺司契部ニ本省各局ニ在テハ之ヲ會計局ニ移シ該局ハ之ヲ中央司契部ニ參謀本部其他官廳ニ在テハ直ニ之ヲ所屬計官ニ付シテ管理セシム

但官廳計官ニ於テ管理ノ現金並ニ公債證書ハ便宜當該司契部ニ委託スルコトヲ得

第二條 中央司契部鎮臺司契部若クハ官廳計官ニ於テ該金ヲ受取リタルトキハ主任

官記名ノ預リ證券ヲ作り所管長官ヨリ之ヲ本人ニ附與ス

第三條 保護金ヲ納ムルニ公債證書ヲ以テスルトキハ之ニ屬スル利札ハ利子下渡シ

ハ無効ノモノトシ
更ニ允許ナクハ
出候向モ有之候
至急何分ノ御指
有之度此段相御
也
(指令)同年四月
日何之趣陸軍
人タル者武官結
條例ニ依ラスシ
結婚スヘキ筋無
其結婚無効ニ屬
ルハ勿論之儀ト
相心得事有之候
ハ官姓名取調可
出候事

ノ期節司契部又ハ計官ヨリ直ニ本人ニ交付スヘシ

第四條 公債證書ヲ納ムルモノ其證書額面ノ都合ニ依リ條例第七條ノ金額ヨリ超過スルハ妨ケナシ

第五條 保護金ハ結婚出願セシ時ノ官階ニ應スル金額ヲ納メシメ其後本人官等ニ異動アルモノ之ヲ増減スルコトナシ

第六條 公債證書ヲ納ムルモノ其證書當籤シタルトキハ他ノ公債證書若クハ現金ヲ以テ交換セシム可シ

但當籤ノ金額受領ノ上相當ノ保護金ヲ納メント欲シ公債證書下付ヲ願出ルトキハ其預リ證書ヲ出サシメ下付スルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ主任官預リ證券ハ返納セシムルモノトス

第七條 公債證書ノ所轄替ヲ爲シ新所轄應ニ於テ證書ニ割印等ノ爲メ一旦下付ヲ願出ルトキモ亦前條但書ノ扱ニ準ス

第八條 本人所管換ノトキ其保護金ハ一旦本人ニ付與シ而シテ本人ヨリ更ニ新所管ニ納メシム可シ此場合ニ在リテハ主任官預リ證券ヲ返納シ別ニ本人ヨリ預リ證券ヲ出サシメ之ヲ所管ニ送付シ新所管ニ於テ保護金ヲ受領シタルトキハ之ヲ本人ニ返付シ更ニ第二條ノ手續ヲナスヘシ

△ 第一條 形證券ニ依リ

△ 第二條 同契部者クハ計官印

第 一 條	納 入 人 姓 名	第 二 條
花	出納官若クハ取扱者	第 三 條
教	金(公債證書額面高)圓	第 四 條
公債證書ハ其種類記載證書ヲ記載ス	右家計保護金トシテ正ニ預リ置候也	第 五 條
△ 近衛謙壽 宿屋 主任 宿	明治 年 月 日 職 官 姓 名 △ 印	第 六 條

第二十二類 兵事 陸軍

○管區兵役 陸軍之部(乙)

●陸軍管區表

明治三十一年五月
勅令第三十二號

朕陸軍管區制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍管區表

第	第					管師 管旅
	水	佐	長	高	麻	
水戸	佐倉千葉	長野	高崎	横濱	麻布	大隊區 警備隊區
茨城	東京	東京	群馬	神奈川	神奈川	管 府 縣
東茨城郡 行方郡 新治郡 筑波郡 那珂郡 信太郡 河内郡 北相馬郡	西茨城郡 那珂郡 多賀郡 久慈郡 鹿島郡	小笠原島	入間郡 高麗郡 比企郡 大里郡 橫見郡 秩父郡 兒玉郡	橫濱區 高座郡 愛甲郡 那賀郡 比企郡 足柄上郡 足柄下郡 大住郡 澁谷郡 山梨	麻布區 麴町區 四谷區 小石川區 日本橋區 芝區 東多摩郡 南多摩郡 伊豆七島	

第 二 類											
第 一 第 二 第 三 第 四											
本郷	宇都宮	仙臺	福島	新發田	柏崎	佐渡	青森	盛岡	秋田	山形	名古屋
東京	埼玉	栃木	宮城	福島	新島	新島	新島	新島	新島	新島	新島
本郷區 本所區 北足立區 中葛飾區	本郷區 北葛飾區 南葛飾區 新座區	宇都宮區 宮城郡 結城郡 西葛飾區	仙臺區 仙臺郡 刈田郡 遠田郡 伊具郡 亘理郡 名取郡	福島區 福島郡 安達郡 東白川郡 石川郡 南會津郡 北會津郡 耶麻郡	新島區 新島郡 東白川郡 北蒲原郡 古志郡	佐渡區 佐渡郡 中頸城郡 西頸城郡	青森區 青森郡 北九戸郡 南九戸郡	盛岡區 盛岡郡 北岩手郡 南岩手郡 東岩手郡 西岩手郡 東和賀郡 西和賀郡	秋田區 秋田郡 南秋田郡 北秋田郡 西秋田郡 東秋田郡	山形區 山形郡 南陽郡 北陽郡 東陽郡 西陽郡	名古屋區 名古屋郡 愛知郡 知多郡 碧南郡

第 三 類										
第 一 第 二 第 三 第 四 第 五 第 六 第 七										
津	豐橋	静岡	金澤	富山	岐阜	福井	大阪	和歌山	大津	滋賀
三重	愛知	静岡	石川	富山	岐阜	福井	大阪	和歌山	大津	滋賀
安濃郡 北志保郡 一志郡 北牟婁郡	南設樂郡 長上郡 鹿玉郡 周智郡	安曇郡 周智郡 有波郡 志原郡 賀茂郡 那賀郡	石川郡 益田郡	富山郡 吉野郡 大野郡 益田郡	岐阜郡 厚見郡 郡上郡 西春日郡 中春日郡	福井郡 南越前郡 大野郡 池田郡	大阪區 八上郡 高安郡 交野郡 東野郡 丹波郡 石川郡 大島郡 泉郡 日根郡	和歌山郡 宇智郡 山田郡 伊賀郡	大津郡 阿拜郡 名張郡 伊賀郡	滋賀郡 山田郡 伊賀郡

第		四				七							
第		八				第							
山口		尾ノ道		廣島	福知山	神戶	岡山	姫路	京都				
鳥根	山口	廣島	廣島	兵庫	京都	大阪	兵庫	鳥取	岡山	鳥取	兵庫	奈良	京都
神門郡	厚狹郡	沼田郡	廣島郡	七美郡	南島郡	能勢郡	神戶郡	河入郡	西尾郡	智頭郡	智頭郡	山添郡	上京區
飯石郡	秋吉郡	佐伯郡	安藝郡	美作郡	北條郡	豊島郡	八木郡	久米郡	和氣郡	八木郡	東條郡	十津郡	下京區
瀬川郡	大津郡	津和野郡	加計郡	水石郡	船中郡	武庫郡	日野郡	大庭郡	勝南郡	八上郡	高野郡	高野郡	愛宕郡
安芸郡	阿武郡	高田郡	高田郡	多紀郡	天田郡	津名郡	英原郡	津名郡	北條郡	津高郡	赤坂郡	赤坂郡	葛野郡
邑智郡	見島郡	高宮郡	高宮郡	福井	福井	三原郡	三原郡	有馬郡	北條郡	赤坂郡	赤坂郡	赤坂郡	葛野郡
那賀郡	吉敷郡	高宮郡	高宮郡	福井	福井	三原郡	三原郡	有馬郡	北條郡	赤坂郡	赤坂郡	赤坂郡	葛野郡
美濃郡	吉敷郡	高宮郡	高宮郡	福井	福井	三原郡	三原郡	有馬郡	北條郡	赤坂郡	赤坂郡	赤坂郡	葛野郡
鹿足郡	吉敷郡	高宮郡	高宮郡	福井	福井	三原郡	三原郡	有馬郡	北條郡	赤坂郡	赤坂郡	赤坂郡	葛野郡

第		五				九							
第		十				第							
佐賀		小倉	沖繩	大島	鹿兒島	大分	宮崎	熊本	高知	松山	徳島	九龍	廣島
佐賀	福岡	三浦郡	山門郡	大分	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島
福岡	三浦郡	山門郡	大分	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島
三浦郡	山門郡	大分	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島
山門郡	大分	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島
大分	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島	鹿兒島
下毛郡	珠洲郡	日田郡	山口	赤間關市	豊浦郡	鹿足郡	鹿足郡	鹿足郡	鹿足郡	鹿足郡	鹿足郡	鹿足郡	鹿足郡
那賀郡	吉敷郡	高宮郡	高宮郡	福井	福井	三原郡	三原郡	有馬郡	北條郡	赤坂郡	赤坂郡	赤坂郡	葛野郡

六		十	
長崎	福岡	福岡	福岡
長崎	長崎	福岡市	福岡市
長崎	長崎	那珂郡	那珂郡
長崎	長崎	山本郡	山本郡
長崎	長崎	久留米市	久留米市
長崎	長崎	西彼杵郡	西彼杵郡
長崎	長崎	東彼杵郡	東彼杵郡
長崎	長崎	宇佐郡	宇佐郡
長崎	長崎	北高來郡	北高來郡
長崎	長崎	石田郡	石田郡
長崎	長崎	下松郡	下松郡
長崎	長崎	上野郡	上野郡
長崎	長崎	御井郡	御井郡
長崎	長崎	早良郡	早良郡
長崎	長崎	志摩郡	志摩郡
長崎	長崎	生葉郡	生葉郡
長崎	長崎	下庄郡	下庄郡
長崎	長崎	上座郡	上座郡
長崎	長崎	嘉麻郡	嘉麻郡
長崎	長崎	鞍手郡	鞍手郡
長崎	長崎	宗像郡	宗像郡
長崎	長崎	御笠郡	御笠郡
長崎	長崎	山本郡	山本郡
長崎	長崎	那珂郡	那珂郡
長崎	長崎	夜須郡	夜須郡
長崎	長崎	福岡市	福岡市

北海道ハ管區制定ニ至ル迄第二師管第四旅管青森大隊區ニ屬ス
 警備隊設置迄ハ東京府小笠原島ハ麻布大隊區ニ新島縣雜太羽茂加茂三郡ハ柏崎大隊
 區ニ島根縣周吉穩地海士知夫四郡ハ松江大隊區ニ鹿兒島縣大島熊毛馭謨三郡及沖繩
 縣ハ鹿兒島大隊區ニ長崎縣南松浦郡ハ長崎大隊區ニ屬ス

●徵兵令改正
 明治二十二年十一月

●徵兵令改正
 明治二十二年一月
 法律第一號

一月
 法律第二十九號
 改正ノ
 件ヲ裁可シ茲ニ之
 ナ公布セシム
 明治二十二年十一月
 一月
 法律第二十九號
 改正ノ
 件ヲ裁可シ茲ニ之
 ナ公布セシム
 明治二十二年十一月
 一月
 法律第二十九號
 改正ノ
 件ヲ裁可シ茲ニ之
 ナ公布セシム

第一章 總則
 第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス
 朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 徵兵令

小學校及選科等ノ
 別科ヲ除クト改
 第四項左ノ如ク
 改ム滿十七歳以
 上滿二十歳以下
 ニシテ立府縣立
 師範學校ノ卒業
 證書ヲ所持シ公
 立小學校ノ教職ニ
 在ル者ハ六週間陸
 軍現役ニ關スル
 其現役ニ關スル
 用ハ官給トスル
 項ノ現役ニ關ス
 ル者ハ直チニ國民
 兵役ニ服スルコト
 同條第四項ノ次ニ
 左ノ一項ヲ加フ
 第三項又ハ第四項
 ニ依リ服役中ノ者
 ニシテ滿二十歳
 迄ニ其職ヲ罷ム
 例ノ者ハ抽籤ノ法
 依ラシテ更ニ常
 例ノ兵役ニ服セシ
 ム但第一項ニ依
 リ志願兵ナシテ
 一年志願兵ナシ
 ラス者ハ此限ニ在
 ラズ第二項ニ依
 リ第一項ノ如ク
 第一項左ノ條
 一項第十一條第
 一項ニ掲ケル學

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス
 第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス
 現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ
 陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス
 第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス
 第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラ
 サル者之ニ服ス
 第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習
 或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ
 第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス
 第二章 服役
 第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲
 兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
 海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル
 職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
 但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

ニ在校ノ者ハ本八ノ領ニ由リ滿二十ノ六歳迄徴集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歳迄止マサル者ハモ十歳止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徴集ス但依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第ニ依リ一年志願兵トシテ之ヲ依リ服スル者ハ此限ニ在ラズ其入營スル年ノ十二月一日ル年ノ十一月一日ノ下ニ依リ第一條第三項ニ依リ服スル者ノ現役年令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スル月日ヲ加フ第一條第四項第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ第一條第三項ニ依リ服スル者ハ第四項ニ依リ服中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其徴集ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セム但在營期限ハ一箇年以内トス
第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ
第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得
第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校帝國大學、撰科及小學校ヲ除ク、府縣立師範學校、中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認めタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學、政治學、理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム
滿十七歳以上、二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ六箇月間陸軍現役ニ服スルコトヲ得其服役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ辨償スルモノトス

可シ、同條未項ノ一項ト改ム

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七箇年間豫備役ニ服シ、三箇年間後備役ニ服ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サズ

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫
第十七條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條ニ掲グル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫スニ十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入

役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間十二月一日豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺シルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ其月主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ

又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小

笠原島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ

照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコ

トヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年十二月一日ヨリ起算スニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サズシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

●志願現役兵許可ノ制限

明治二十二年三月十九日 送乙第九〇七號副官ヨリ

近衛、師團

徵兵令第十條立案ノ主意ハ徵兵適齡以前ニ於テ現役ニ服シ滿期後間斷ナシ學術ヲ修メ若クハ實業ニ從事セントスル者又ハ陸海軍下士希望ノ者ヲシテ其目的ヲ達セシムヘキ儀ニ有之就テハ該條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ可成的高等小學科以上ノ學力ヲ有シ身元確實ト認ムル者ニ限り其服役ヲ許可シ糊口ノ爲ニスルカ如キ狀アル者ハ許可セサル様御注意相成度命ニ依リ此段及通牒候也

●六週間陸軍現役兵ノ徵集及服役方

明治二十三年三月 勅令第二十二號

朕徵兵令第十一條第三項ニ依リ陸軍現役ニ服スヘキ者ノ徵集及服役ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役兵ニ服スヘキ者ハ其教職ニ在ル地ヲ包括スル師管ノ歩兵隊ニ編入ス其身體検査ハ入營ノ際歩兵聯隊ニ於テ之ヲ行ヒ検査ニ

合格セサル者ハ國民兵役ニ編入ス
入營期日ハ毎年六月一日トシ其入營旅費ハ官給ス

●六週間陸軍現役ニ服スル者取扱方

明治二十三年三月
陸軍省訓令甲第二號

師團、道廳、府縣

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スル者ノ取扱左ノ通定ス

第一項 官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ道廳府縣ニ於テ調査シ毎年五月一日迄ニ其族籍氏名共ニ師團司令部ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知スヘシ但官立小學校ノ教職ニ在ルモノハ其所屬長ヨリ四月二十日迄ニ族籍氏名及身幹尺度ヲ學校所在地廳府縣ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス

第二項 師團司令部ニ於テハ入營スヘキ人員ヲ步兵聯隊ニ配當シ入營前日迄ニ其聯隊所在地ニ召集シ身體検査ヲ行ハシム可シ但身幹定尺ニ滿タサル者ハ召集スルヲ要セス

身體検査ノ格例ハ一般徵兵ノ例ニ依ル

第三項 身體検査ニ合格シタル者ト合格セサル者身幹定尺ニ滿タサル者共ヲ區分シ師團長ヨリ本

籍ノ旅管徵兵官ニ通知ス可シ

第四項 旅管徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其合格セサル者ニハ國民兵役證書ヲ附與スヘシ

第五項 前諸項ニ掲グルモノ、外ハ師管徵兵官ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ

●陸軍輜重輸卒現役及入營期限ヲ定ム

明治二十二年三月
勅令第三十七號

朕陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分テ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス

疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシメ其補缺員ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ豫備徵兵ヲ以テ補缺ス

●徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フヘカラサル
官吏ハ其官廳ヨリ豫メ内閣ニ具狀シ認可ヲ請ハシム

明治二十二年二月
閣令第六號

各官廳
明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

●附籍者徵兵適齡届出及應徵方

明治二十二年十一月
陸軍省訓令甲第七號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戶主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在テハ本籍戶主ヨリ徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ差出サンメ本籍ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セシム可シ
●徵集延期若クハ猶豫中他徵募區ニ轉籍スル者アルト

キ通知方

明治二十二年十月
陸軍省訓令甲第六號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知セシム可シ

但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回ト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者ノ取扱亦本文ニ同シ

●官立府縣立師範學校卒業生徒徵集處分方

明治二十二年三月
法律第八號

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘシ

●新兵引率ノ節附屬員定員

明治二十二年四月
送乙第一三〇六號

師團、同監督部

徵兵事務條例第四十八條ニ依リ大隊區副官及同書記新兵引率ノ節ハ附屬員トシテ各隊軍曹及上等兵若クハ兵卒ノ内左ノ割合ニ應シ新兵召集地ニ差遣セシム可シ但監督部ニシテハ未次ヲ除ク

但往復旅費大隊區司令部ヨリ支辨セシム
新兵五十人以上百人迄 軍曹一名 上等兵一名

同 百一人以上二百人迄 軍曹一名 上等兵若クハ兵卒二名
 同 二百一人以上三百人迄 軍曹一名 上等兵若クハ兵卒三名
 同 三百一名以上 軍曹一名 上等兵若クハ兵卒四名

●舊徵兵令ニ交渉事件取扱方

明治二十二年三月 陸軍省訓令甲第三號

師團司令部

北海道廳府縣沖繩縣ヲ除ク

本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正ニ付テハ舊徵兵令ニ交渉ノ件取扱方左ノ通定ム

第一項 左ニ掲クル者ハ戸長ニ於テ徵兵事務條例施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡區長ニ差出サシム可シ

- 一 新令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者
 - 二 舊令第十八條第五項第六項ニ當リ徵集猶豫中ノ者
 - 三 舊令第十七條ニ當ル者ニシテ其資格ヲ失ヒ第十八條第五項第六項ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當ル者ニシテ其事故止ミ本年徵集ニ應スヘキ者
 - 四 新令施行前逃亡失踪其他ノ事故ニテ翌年回シト爲リタル者
- 第二項 前項ノ壯丁名簿ハ島司郡區長ヨリ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出

セシム可シ

第三項 新令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期又ハ徵集猶豫中ノ者ハ別ニ壯丁名簿ヲ作ルヲ要セズ從前ノ徵集猶豫名簿ヲ島廳又ハ郡區役所ニ備置キ異動ヲ生スル者アルトキハ訂正セシム可シ

●徵兵事務條例改正

明治二十二年二月 勅令第十三號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
- 第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
- 第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス
一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
- 第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス

近衛歩兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス
警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス
海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管内府縣徵兵事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又

ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ
第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 郡市島嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

郡市島嶼徵兵參事員ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被選人ハ其郡市島嶼内ニ現住ノ者ニ限ル

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス

第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身體檢査ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ專ラ身體ノ檢査ニ從事ス

第十五條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具中スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十六條 第十條ニ掲クル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島嶼附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス

第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島廳附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス

第十八條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作リ三月一日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作リ前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署

ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク

土地廣濶壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

島司郡市長ハ検査ノ日時、徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審覈ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫

大可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其
他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ
屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ副管徵兵官ニ
申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ
府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長

ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ
等位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人
之ヲ爲スモノトス

抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作

リ其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徵募ノ處分ヲ
爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處
分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團
長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ
交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大
臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵員及國
民兵編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輪卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セス

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラヌ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラヌ

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認タル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他メ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前癘疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ與書讀印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戶主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八節 豫備徵員
第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號

ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスニテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則
第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戶主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戶主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官

ニ願出可シ

其願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ

一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ

島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添へ本人寄留地ノ島司郡市長ニ

通知ス可シ

第六十四條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中

ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師

ノ診斷書ヲ添フ可シ

島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當

日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者

ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費

、府縣郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪へ難キ者ハ近衛都督師團長又

ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪へ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現

役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由

リ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年

期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内現役兵ノ戸主二名ノ保證書

ヲ添へ大隊區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府

司令長官ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スル

コト能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄

留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ヨリ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル

第七十四條 明治二十二年ニ限リ第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

●徵兵事務條例中徵募區及市長、市書記、市徵兵參事員

ニ關スル件 明治二十二年五月 勅令第六十四號

朕徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參事員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ區ヲ以テ徵募區ト爲ス徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大坂市ニ於テハ區長若クハ區街

記ニ於テ之ヲ行フ

東京市京都市大坂市ニ於テハ市徵兵參事員ヲ置カス區ニ區徵兵參事員ヲ置キ市徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム其人員選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ市徵兵參事員ニ同シ區徵兵參事員ノ選舉月日及選舉開會並投票函閉鎖ノ時刻ハ明治二十二年ニ限リ府知事ヨリ選舉開會五日以前ニ告示スルコトヲ得

●家事故障免役者取扱方

明治二十二年四月 陸軍省訓令乙第十二號

新兵入營後徵兵事務條例第六十八條ニ依リ本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル爲メ現役ヲ免スヘキ者ハ初年第二期輸重輸卒ハ第一期ノ檢閲終リタル後其役ヲ免シ豫備役ニ編入スヘシ

●歩兵聯隊ノ兵員ヲ徵集スヘキ聯合大隊區ヲ定ム

明治二十二年五月 陸軍省令第十一號

徵兵事務條例第四條ニ依リ歩兵聯隊ノ兵員ヲ徵集ス可キ聯合大隊區左ノ通定ム

- 歩兵第一聯隊 麻布大隊區 横濱大隊區
- 歩兵第十五聯隊 高崎大隊區 長野大隊區

步兵第二聯隊	佐倉大隊區	水戸大隊區
步兵第三聯隊	本郷大隊區	宇都宮大隊區
步兵第四聯隊	仙臺大隊區	福島大隊區
步兵第五聯隊	新發田大隊區	柏崎大隊區
步兵第六聯隊	青森大隊區	盛岡大隊區
步兵第七聯隊	秋田大隊區	山形大隊區
步兵第八聯隊	名古屋大隊區	津大隊區
步兵第九聯隊	豐橋大隊區	静岡大隊區
步兵第十聯隊	金澤大隊區	富山大隊區
步兵第十一聯隊	岐阜大隊區	福井大隊區
步兵第十二聯隊	大阪大隊區	和歌山大隊區
步兵第十三聯隊	大津大隊區	京都大隊區
步兵第十四聯隊	姫路大隊區	岡山大隊區
步兵第十五聯隊	神戸大隊區	宮津大隊區
步兵第十六聯隊	廣島大隊區	山口大隊區
步兵第十七聯隊	尾ノ道大隊區	松江大隊區

步兵第十二聯隊	丸龜大隊區	徳島大隊區
步兵第十三聯隊	松山大隊區	高知大隊區
步兵第十四聯隊	熊本大隊區	宮崎大隊區
步兵第十五聯隊	大分大隊區	鹿児島大隊區
步兵第十六聯隊	小倉大隊區	佐賀大隊區
步兵第十七聯隊	福岡大隊區	長崎大隊區

●徵兵事務條例施行細則

明治二十二年二月 陸軍省令第一號

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徵兵事務條例施行細則

- 第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一様式ニ依リ之ヲ作リ一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ
- 第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名簿ヲ作リ壯丁名簿ニ添附ス可シ
- 第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ

報告ス可シ

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到着ノ上之ヲ開設ス可シ

徵兵検査所ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官豫メ旅管徵兵官ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概テ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ島廳附府縣屬郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ヲラシムルトキハ勉メテ別室若クハ

隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服セシコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認めル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附録第二樣式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
- 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

- 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
 - 四 工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ筋力アル者
 - 五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可シ馬匹ノ使用ニ慣レ且筋力アル者
 - 六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ管テ其職ニ從事セシ者
- 近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ
- 第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ
- 一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者
 - 二 汽車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者
 - 三 現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖トモ一箇年以上管テ之ニ從事セシ者
 - 四 舟夫
 - 五 漁夫
- 職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ
- 第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出スヘシ
- 公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名

- 簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區番ニ其事由ヲ記スルモノトス
- 第十四條 大隊區ニ於テ師團步兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル
- 第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ
- 第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ検査ヲ行ハス
- 第十七條 疾病傷痕又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所若クハ旅管徵兵署ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷痕ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ
- 第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到著ノ上之ヲ

開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先テ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分テ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應ジ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島應附府縣屬郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ島應附府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ島應附府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ封印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截テ切リ總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 検査合格者ハ左ニ掲クル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵員ニ編入ス

一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者二人以上ナルトキハ年齡ノ順序ニ同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從フ第二項第三項

第五項第六項亦同シ

二 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者

四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者番號ノ順序ニ從フ第七項亦同シ

五 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附録第四第五第六第七様式ニ依リ新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徵集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徵兵検査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分テ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徵員監視名簿ヲ作リ各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附錄第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ
新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動輸入籍ヲ除クハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條 検査後抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ
其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ
他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添

ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應シ度キ旨一月三十一日迄ニ願出ルルハ島司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得
島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但寄留替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ

第三十二條 徵兵令第二十五條ノ届出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ差出ス可シ

市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ提出ス可シ
第三十三條 新兵入營ノ期ニ先ヲテ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛、海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ
新兵五人以上五十人迄 下若クハ上等兵海軍ハ一等卒以下之ニ徵フ一名兵卒一名乃至三名

新兵五十一人以上百五十人迄 中少尉 海軍ニ在テハ大尉以下之ニ效フ

新兵百五十一人以上三百人迄 一名下士若クハ上等兵一名乃至二名兵卒四名乃至六名 中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵卒八名乃至十名

新兵三百一人以上 大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵卒十名乃至十五名

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河

第三師管ハ四日市、沼津

第四師管ハ神戸

第五師管ハ廣島、吳、丸龜

第六師管ハ長崎、佐世保、大分

第三十六條 近衛、海軍新兵入營ノ期ニ先タチ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨ

リ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ

第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長又ハ近衛、海軍新兵受領委員ニ其由ヲ通知ス可シ

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタル者ハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但シ本條ノ人員ハ其年新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス

第四十條 新兵入營前癡疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ

第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒スヘシ

第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒スヘシ

第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

第一様式 (壯丁名簿)

用紙美濃紙半葉

明 治 何 年 壯 丁 名 簿		住所	兵種	假	決	終決	備考	體	格	身	職
府(縣)郡(市)町(村)	何兵何番	△明治何年令第十八條ニ當リ徵集 △延期○ △ △	△華(士族)平民(何職) △某長(次男)兄(弟)月主 △何 △ △	氏名 △年 月 日 △何府(縣)身分何(長)次(女)某 △何府(縣)身分何(長)次(女)某	妻 △年 月 日 結婚 △何府(縣)身分何(長)次(女)某	子 △長男 某 △長女 某	△近衛現役(豫備徵員) △年月日何罪ニ依リ何刑何年ニ處セラル○賭博犯ニ由リ懲罰何年ニ處セラル○月主或ハ本人 △家屋ヲ有ス○月主或ハ本人地租何回ヲ納	等位 尺身 胸圍 尺腕 各部 構造	視力 辨色力	筋力 運動	度幹

一 職業ハ現ニ從事スル所ノ職業ヲ記シ兼業ノ者ハ之ヲ併記ス假令ハ一農兼木工ニ商兼鍛工等ノ如シ但官階
 二 留地ニ於テ徵集ニ應スル者ハ住所ノ區畫ニ本籍地ト寄留地ト併記ス可シ
 三 備考區畫中刑ハ禁錮以上ノモノヲ記ス可シ
 四 兵種番號、假決、終決、體格ノ區畫ニハ大隊區徵兵署又ハ營區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ於テ其事項ヲ記
 入スルモノトス

第二樣式 (徵集延期(猶豫)證書)

用紙厚紙

<p>△府(縣)郡(市)町(村) 氏 名</p>	<p>右徵兵令第△何條ニ依リ徵集ヲ延期(猶豫)ス</p>
<p>年 月 日</p>	<p>「△」大隊區徵兵署△ 印</p>

凡曲尺五寸

本證書ハ之ヲ附與シタル日ヨリ翌年ノ徵兵検査迄其効チ有スルモノトス

本證書用紙ハ島野郡市役所ニ於テ調製スヘシ

第三様式 (綴札)

用紙厚紙

近衛(海軍)

甲(乙)種 何兵 第何番

綴札用紙ハ島根郡市役所ニ於テ調辨スヘシ

第四様式 (新兵證書)

用紙厚紙

表

尺四尺四寸

凡曲尺六寸

第△何旅管△何大隊區

△府(縣)郡(市)町(村)住

△何兵第何番

△氏 名

右現役兵ニ徵募シ△何兵第△何聯(大隊)ニ編入ス

年 月 日

第△何旅管徵兵署△

印

表

新兵入營前ノ心得

- 一 新兵入營期日ハ十二月一日トス
- 一 警備隊諸兵ノ入營期限ハ第一次ハ十二月一日第二次ハ六月一日トス
- 一 輕重輸卒ノ入營期限ハ第一次ハ十二月一日第二次ハ四月一日第三次ハ八月一日トス
- 一 入營前轉籍スル者ハ豫メ其由ヲ監視區長ニ届出テ監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地ノ監視區長ニ届出可シ其届出ヲ爲サハルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラレモトス
- 一 疾病傷痰或ハ犯罪等ニテ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其届書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス其届出ヲ爲サハルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラレモトス
- 一 入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ其届出ヲ爲サハルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラレモトス
- 一 故ナク入營ノ期ニ後レ平時ニ在テ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處セラレモトス
- 一 此證書ハ入營迄ニ事故ニ由リ其年入營セキ其効チ有スルモノトス
- 一 此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

一 近衛海軍ニ在テハ表面ノ右以下ヲ「右近衛現役兵ニ徵募ス」ト記ス可シ
 二本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

第五様式 (豫備徵員證書)

用紙厚紙

表

凡曲尺六寸

年月日

第△何旅管△何大隊區

△府(縣)郡(市)町(村)住

△何兵第何番

△氏 名

右豫備徵員ニ徵募ス

第△何旅管徵兵署△印

豫備徵員ノ心得

一 豫備徵員ハ戰時若シハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年ノ新兵缺員ヲ生シタルトキ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集セラル、モノトス但新兵缺員ノ爲メ徵集セラル、ハ十二月一日ヨリ同月三十一日迄ノ間トス

一 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出テ監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出テ其届出ヲ爲サ、ルトキハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル、モノトス

一 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスシテ寄留若シハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得、其以後ニ在テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ以上ノ成規ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル、モノトス

一 故ナク入營ノ期ニ後レ平時ニ在テ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一年以上以下ノ輕禁錮ニ處セラル、モノトス

一 新兵ノ補缺トシテ徵集ヲ命セラレサル者ハ徵募年ノ十二月一日ヨリ起算シ滿一箇年ノ後ハ別ニ命ナクシテ國民兵ニ編入セラレタルモノトス

一 此證書ハ國民兵役ヲ終ル迄其効ヲ有スルモノトス

一 此證書ヲ失ヒ若シハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

一 近衛海軍ニ在テハ表面右以下ヲ、右近衛豫備徵員ニ徵募ス、右海軍豫備徵員ニ徵募ス、ト記ス可シ
 二本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

第六様式 (國民兵證書)

用紙厚紙

表 式 用 尺 四 寸

凡曲尺六寸

右徵兵令第△何條ニ依リ國民兵ニ編入ス

第△何旅管△何大隊區

△府(縣)郡(市)町(村)住

△氏 名

年 月 日

第△何旅管徵兵署△

印

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可ク

表

本証書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

第七様式 (免役證書)

用紙厚紙

大正十四年四月

右徵兵令第十七條ニ依リ兵役ヲ免ス

第△何旅管△何大隊區
△府(縣)郡(市)町(村)住

△氏 名

年月日

第△何旅管徵兵署△

印

凡曲尺六寸

茲

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

第八樣式ノ一(徵兵表)

何明治第何旅管徵兵表

其一

用紙大美濃紙

種別	近		衛						師					
	現		備			徵			現					
	步	騎	工	輜	職	工	計	步	騎	工				
											兵	兵	兵	兵
隊區														
麻														
布														
橫														
濱														
計														

第二十二類 兵事 陸軍

種別	徵 募 人 員										何 年 第 何 旅 管 徵 兵 表	其 二		
	現 役					預 備 徵 員								
	當 籤 者		志 願 者			小 計		當 籤 者		合 第 廿 八 條 三 當 ル 者				
	計	小 計	計	小 計	計	小 計	計	小 計	計	小 計				
二十歲														
二十一歲														
二十二歲														
二十三歲														
二十四歲														
二十五歲														
二十六歲														
計														

一 警備隊區アル旅管ニ在テハ大隊區ノ下ニ其區區ヲ設ケ可シ
 二 北海道ヨリ徵集ニ應シタル者ハ近衛師團及海軍ヲ區別シ現役預備徵員ヲ分チ其人員ヲ備考區區ニ記ス可シ
 三 本表ノ區區ハ實際ニ就キ適宜増減ス可シ其二表亦同シ
 第八様式ノ二(徵兵表)
 用紙大美濃紙

第二十二類 兵事 陸軍

備考	軍 海 團											
	現 役				預 備 徵 員				役			
	水 兵		火 兵		工 兵		輜 重		工 兵		步 兵	
	計	小 計	計	小 計	計	小 計	計	小 計	計	小 計	計	小 計
計												

ヲ爲シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

武器及屬具ハ服役滿期ノトキ之ヲ返納セシム

第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシテ第二條ノ納金ノ外金八拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第四條 一年志願兵ハ日給ヲ給セサルモノトス

徵兵署檢査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自辨トス

第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ通勤セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス

若シ品行不正ノ事アルトキハ營内ニ居住セシメ食餌ハ該部隊ヨリ給シ其費用ヲ辨償セシム

第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム

一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ被服裝具彈藥武器及屬具ヲ給與ス

二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ食餌

被服裝具彈藥ヲ給與シ營内ニ居住セシム

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 官費ヲ以テ服役セシム可キ壯丁前條ノ定員ニ超過シタルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ回シ入隊セシムルコトアル可シ

第九條 一年志願兵ヲラント欲スル者ハ其願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ島司又ハ郡市長ニ差出シ島司郡市長ハ本人身元資産ノ有無及犯罪ノ有無ヲ取調ヘ證明書ヲ作り之ヲ願書ニ添ヘ本人居住地所管ノ旅團長ニ差出ス可シ

一 戸主本人戸主ナラバ其家族ノ承認書

此承認書ハ第二條第三條第五條第一項又ハ第六條第一項若クハ第二項ノ費用ヲ自辨スルコトヲ記スルモノトス

二 官立學校帝國大學及府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認めタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學校則ニ依

リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校卒業ノ者ハ前項ニ掲グル承認書ノ外該學校ノ卒業證書

第十條 一年志願兵ヲラント欲スル者ニシテ一月三十一日迄ニ第九條第二項ノ學校ヲ卒業セサルモ其年ノ九月三十日迄ニ卒業ス可キ者ハ卒業證書ニ換フルニ學校長ノ證明書ヲ以テ願出ルコトヲ得但卒業シタルトキハ直ニ卒業證書ヲ添ヘ旅團長ニ

届出可シ

第十一條 第九條ノ志願者中學術ノ試験ヲ受ク可キ者ハ其人名書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下付ス

師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其所在ノ軍醫ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験委員到著ノトキ交付ス

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體検査ニ合格シタル者ノ學術ヲ試験シ試験書ヲ旅團長ニ送付ス

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其及第者ニハ併セテ認定證書ヲ附與ス

第九條第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵ト同時ニ身體ノ検査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ附與スヘシ

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第十六條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十七條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月三十日限り第二條第三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年回リト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徵兵官ニ届出可シ

第十九條 一年志願兵入隊スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シ之ヲ部下某中隊ニ編入シ

該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ聯隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナシ但營中雜役ヲ免シ又被服ニ特別ノ徽章ヲ附ス
室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬匹馬

具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メコハ自ラ之ヲ爲スヲ要ス

第二十三條 一年志願兵中勤務ニ熟達シ且品行方正ニシテ豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪フ可キト認ムル者ハ入隊ノ日ヨリ越算シ六箇月ノ後上等兵トナシ特別ノ教育ヲ授ケ下士ノ勤務ヲ爲サシム

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際聯隊長ハ一年志願兵終末試験委員ニシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長步兵ハ旅團長ヲ經テニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

終末試験ニ落第シタル者ハ二等軍曹ニ任シ若クハ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生又ハ志願獸醫學生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志望ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立可シ

獸醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫學生トランコトヲ志望スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲

スニ及ハス

第二十六條 志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生及志願獸醫學生ヲ命スルニハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フ可シ

第二十七條 志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生及志願獸醫學生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十八條 志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生及志願獸醫學生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長一年志願兵終末試験委員ニシテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス

終末試験ニ落第シタル者ハ曹長若クハ軍曹相當官ニ任シ豫備役ニ編入ス

第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定ム

第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年ノ十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十一條 戰時若クハ事變ニ際スルトキハ一年志願兵ト雖モ一般ノ兵卒ト同シク服役セシム

附則

第三十二條 明治二十二年ニ限リ第九條ノ願出期限ハ三月十五日迄トス
第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

●陸軍一年志願兵條例施行細則

明治二十二年三月
陸軍省令第三號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通定ム

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品ハ左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 絨衣袴
- 四 小倉衣袴
- 五 夏衣袴 二着
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆

九 第一種手牒

十 背篋 屬具共

十一 飯盒

十二 水筒

第二條 條例第三條ノ馬匹ニ係ル一切ノ費用トシテ納メシムル費目ハ左ノ如シ

一 菰秣寢蓐費

二 裝鐵刷毛費

三 馬療費

第三條 居宅及食餌自辨ノ者行軍若クハ野外ニ於テ演習ヲ爲ストキハ部隊ヨリ食餌ヲ給シ實費ヲ以テ其代價ヲ辨償セシム

第四條 條例第六條第二項ノ武器及屬具ノ修理費ハ金九圓トス

第五條 條例第九條ノ願書及承認書ハ附録第一第二第三第四様式ニ依リ認メ本籍ノ島司又ハ郡市長ニ差出ス可シ

第六條 條例第九條ノ證明書ハ附録第五第六様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第七條 條例第九條ノ卒業證書ハ其寫ヲ差出ス可シ

第八條 條例第十一條第二項ニ依リ師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定ムルト同時ニ検査

所設置ノ場所ヲ定メ府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ其時日及場所ヲ管内ニ告示ス可

第九條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ニシテ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ陸軍醫官其合格ト不合格トヲ判定シ且不合格ノ者二十歳未満ノ者ヲ除クハ永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ差出シ師團長ハ之ヲ本人居住地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第十條 旅管徵兵官ハ前條ノ書類ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ處分ヲ爲シ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ體格検査表ヲ大隊區徵兵官ニ送付シ大隊區徵兵官ハ該検査表ニ依リ徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十一條 條例第十一條第二項及第十二條ノ身體検査並學術試験ニ出願セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス
前項ニ當ル者ハ旅團長ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十二條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第七様式ニ依リ作ル可シ
第十三條 官費ヲ以テ服役セシムヘキ者ニハ旅團長附錄第八様式ニ依リ官費服役許可狀ヲ作り本人ニ附與ス可シ

條例第八條ニ依リ次年回シト爲スヘキ者ハ許可狀ノ裏面ニ其事由ヲ記載ス可シ
第十四條 官費ヲ以テ服役セシム可キ者ヲ各隊ニ配付スルニ方リ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ近衛又ハ師團監督部所在地ノ歩兵隊ニ配付ス可シ

第十五條 條例第十四條ニ依リ身體ノ検査ヲ受ク可キ者ノ氏名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官ニ達シ大隊區司令官ハ之ヲ島司又ハ郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及其場所ヲ管内ニ告示ス可シ

大隊區徵兵署又ハ検査所ニ出頭シ難キ事故アル者ハ願ニ由リ他ノ大隊區徵兵署若クハ検査所若クハ旅管徵兵署ニ於テ身體ノ検査ヲ受クルコトヲ得但許可ヲ受ケスシテ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

前項但書ニ當ル者ニシテ寄留ノ者ハ大隊區司令官ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十六條 大隊區徵兵官若クハ検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ大隊區司令官合格不合格ヲ區別シ検査報告書ヲ作り之ヲ旅團長ニ差出ス可シ

身體ノ検査ニ合格セサル者二十歳未満ノ者ヲ除クニシテ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ旅管徵兵官免役ノ處分ヲ爲シ其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ大隊區徵兵官徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十七條 身體ノ検査ニ由リ本人志望ノ兵種ニ適セサルモ他ノ兵種ニ適ス可キハ者更ニ他ノ兵種ヲ志願スルコトヲ得

第十八條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ハ旅團長ヨリ自費服役官費服役次年回シ等ヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シニ送付シ又

其人員ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出可シ

第二十條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ムヲ得サル事故ヲ生シ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊ノ延期ヲ旅團長ニ願出可シ

其事故十二月二十日迄ニ止マシテ入隊セサル者ハ旅團長之ヲ次年回シト爲シ聯隊長及本人ニ通知ス可シ

第二十一條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ聯隊長ヨリ其人名ヲ旅團長ニ通知スヘシ

第二十二條 條例第三十條及本則第十九條第二十條第二項ニ當ル者官費服役者ナルトキハ旅團長ハ條例第八條ニ依リ次年回シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得但入隊ヲ命シタルトキハ其人名ヲ聯隊長ニ通知スヘシ

第二十三條 一年志願兵ハ入隊ノ當日讀法式及宣誓式ヲ行フモノトス

第二十四條 刪除

第二十五條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生、志願軍醫生、志願藥劑生、志願獸醫生ト爲リ各専門ノ勤務練習ヲ志望スル者ハ該隊長ヨリ各自ノ卒業證書寫ヲ添ヘ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ通牒シ監督部長軍醫長獸醫長ハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年初ニ於テ該隊長ヲ經由シ之ヲ命ス可シ

第二十六條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生ト爲シタル者ハ近衛又ハ師團監督部長ニ志願藥劑生ト爲シタル者ハ近衛成病院ニ派遣シ勤務ヲ練習セシム

第二十七條 志願軍吏生ノ教育ハ近衛又ハ師團監督部長志願軍醫生ノ教育ハ該隊二等軍醫正志願藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長志願獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫各其責ニ任スルモノトス

第二十八條 條例第二十三條及第二十六條ニ依リ上等兵及志願軍吏生、志願軍醫生、志願藥劑生、志願獸醫生ト爲シタル者ハ武器及屬具ヲ返納セシメ更ニ徒卒刀ヲ給ス可シ

第三十條 一年志願兵滿期ニ先タテ近衛都督又ハ師團長ハ條例第二十九條ノ終末試驗委員ヲ組織ス可シ

第三十一條 終末試驗委員ハ各隊各部毎ニ上長官一名士官若干名ヲ以テ組織ス可シ但獸醫部ニ在テハ士官若干名ヲ以テ組織ス可シ

第三十二條 條例第二十四條第一項第二十八條第一項ニ依リ豫備役ニ編入ス可キ者ハ該隊ヨリ其兵籍ヲ本人居住地ノ大隊區司令部ヘ送致シ其他ハ本籍地ノ大隊區司令部ヘ送致ス可シ

第三十三條 條例第二十四條及第二十八條ノ一年志願兵終末試驗及第證書ハ附録第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ作ル可シ

第三十四條 一年志願兵中豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪ヘスト認ムル者ハ下士ト爲スノ教育ヲ授ケ適任ノ者ハ服役滿期ノ際上等兵ト爲シ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第三十五條 服役中ノ費用自辨ノ者入隊後禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ疾病傷疾ニ依リ現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金ヲ還付ス

一年志願兵服役願

第一様式

私儀徵兵令第十一條ニ依リ服役中ノ費用全部ヲ自辨シ何兵何聯大隊又ハ何聯「大」隊ニ於テ一箇年間現ニ服役シ度志願ニ候間「學術ノ試驗ヲ受リ可キ者ハ記入ス」御認可相成度別紙某學校卒業證書(某學校長ノ證明書)戸主(家族)ノ承認書相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)

氏

名印
年月日生

旅團長 爵氏名 殿

近衛隊志願ノ者ハ本文何兵ノ上ニ近衛ノ二字ヲ記入ス可シ
第二様式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用全部自辨ス可キ資力無之候ニ付住宅及食餌(武器及屬具ノ修理費)ヲ自辨仕候間「學術ノ試驗ヲ受リ可キ者ハ」學術
「學術ノ試驗ヲ受リ可キ者ハ」學術
「學術ノ試驗ヲ受リ可キ者ハ」學術
可相成度別紙某學校卒業證書(某學校長ノ證明書)戸主(家族)ノ承認書相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)
氏

年月日 生 氏 名 印

旅團長 爵氏 名 殿

第三様式

一年志願兵服役承認書

氏 名

右私長男(孫)ニテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可致候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
主

氏 名 印

第四様式

一年志願兵服役承認書

氏 名

右私長男(孫)ニテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用全部自辨スヘキ資力無之候得共居室及食餌(武器及屬具ノ修理費金何圓)ハ無相違自辨(辨償)可致候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
主

氏 名 印

第五様式 用紙厚紙

身元證明書

氏 名

右ハ刑ニ處セラレタルコトナク(何々ニ依リ罰金何圓ニ處セラレタルコトアリト雖モ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナク)且其戶主(本人)何々(記名)額面何千圓ナ有シ是ヨリ生スル潤益年額若干金並何々(無記名)若干ナ有シ其他官廳ヨリ受クル俸給(何會社)商社ヨリ受クル給料(年額何千圓)何々ノ所得年額何千圓(有之候者ニ付一年志願兵服役中ノ費用全部ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年月日

第六様式

身元證明書

氏名

右ハ刑ニ處セラレタルコトナク(何々ニ依リ罰金何圓ニ處セラレタルコトアリト雖モ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナク)且其戶主(本人)何々(記名)額面何百圓ナ有シ是ヨリ生スル潤益年額若干金(何々無記名)若干(官廳ヨリ受クル俸給年額若干金)(何會社)商社ヨリ受クル給料年額若干金(何々ノ所得年額若干金)アリト雖モ是ニ依リ一家幾口ノ生計ヲ立ルモノナレハ居宅及食餌(武器及屬具ノ修理費)ノ外自辨シ能ハサルヲ證明ス

府(縣)鳴司郡(市)長 氏 名印

第七様式 用紙厚紙

第 號

府(縣)族籍

第八様式

第 號

欄花紋

用紙厚紙

氏名

年月日生

右陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定シ何兵何聯「大」隊ニ於テ服役スルコトヲ許可ス(命ス)

職 爵 位 勳 氏 名 印

府(縣)族籍 氏

年月日生 名

右居宅及食餌(武器及屬具ノ修理費)ノ外官費ヲ以テ陸軍一年志願兵トシテ服役スルコトヲ許可ス

職 爵 氏 名 印

第九號式
用紙ノ寸法

八寸二分
壹尺

右一年志願兵ニ及

終末試験ニ及

年 月 日

職位勳氏名印

陸軍歩兵上等兵

氏 名

第 號

七寸八分

●一年志願兵ニテ軍曹相當官ニ任用方

明治二十二年三月
陸軍省訓令乙第九號

近衛、師團

陸軍一年志願兵條例第二十八條ノ終末試験落第者ニシテ軍曹相當官ニ任スヘキ者ハ
志願獸醫生ニ限ル但其落第者ハ蹄鐵工長ニ任スヘシ

●一年志願兵ニ上等兵ヲ命シ方

明治二十二年十二月
陸軍省訓令乙第二十三號

近衛、師團

陸軍一年志願兵條例第二十三條及施行細則第三十四條ニ依リ上等兵ヲ命スルニハ一
等卒ト爲シタル後之ヲ命スヘシ

●一年志願兵ニ一等卒ヲ命シ方

明治二十二年十二月
陸軍省送乙第三三號

陸軍一年志願兵昇級ノ件本年乙第二十三號ヲ以テ訓令相成候處一年志願兵條例第二
十三條ニ當ル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ次テ上等兵ヲ命スヘ
シ同施行細則第三十四條ニ當ル者ハ入隊ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ適宜一等卒ヲ命スヘ

キ義ト御承知有之度候

●一年志願兵へ貸渡兵器並彈藥支給方

明治二十二年
陸軍省送乙第三三〇四號

一年志願兵へ貸渡兵器並彈藥支給方取扱別紙之通り定ム
(別紙)

一年志願兵へ貸渡兵器並ニ彈藥支給方取扱

第一項 携帶兵器及軍鞍ノ類ハ繰合得ル限リ武庫豫備品ノ内ヲ以テ貸渡スヘシ

第二項 彈藥ハ各所管ヨリ直チニ拂下方東京砲兵工廠へ照會スヘシ

但一年志願兵條例第六條ニ該ル者へハ歸休兵ノ分ヲ以テ給與ス

第三項 砲兵ノ彈藥及工兵用火藥火具等ノ如キ該兵ノ爲メニ特ニ支給セサルトキハ

辦償セシムルニ及ハス

第四項 貸渡シタル兵器ノ修理ヲ要スルトキハ衛戍武庫ニ於テ修理ヲ加ヘ其費用ヲ

自辨セシム

第五項 砲具曳具等ノ如キ各自へ貸與セサルモノ、修理ハ其費用ヲ分擔セシムルニ及ハス

但不注意ヨリ生シタル毀損落失ハ制規ニ據テ處分スヘシ

第六項 服役滿期ノ前ニ當リ各自貸與ノ兵器ヲ検査シ破損アルモノハ修理ヲ加ヘシ

ム損所ナキモ必ス衛戍武庫ニ於テ手入レヲ爲サシメ返納セシムルモノトス

●試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職

ノ儘服役スルコトヲ得
明治二十二年三月
閣令第十一號

朕試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者服役ノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

試補及判任官見習並非職休職ノ官吏ニシテ一年志願兵トナル者ハ其儘服役スルコト
ヲ得

但有給者ニハ俸給ヲ給セス試補及判任官見習ニ在テハ服役時日ヲ實務練習ノ期限
ニ算入セス

●陸軍志願兵身體検査規則
明治二十二年三月
陸達第三十九號

陸軍志願兵身體検査規則別冊之通定ム

(別冊)

陸軍志願兵身體檢查規則

- 第一條 身體檢查ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ而シテ醫官ハ此檢查ヲ行フ爲メ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得
- 第二條 醫官ハ一日志願兵概テ四十名助手アルトキハ概テ六十名ヲ檢查スヘシ其檢查ニ要スル器械ハ陸軍病院備附ノモノヲ使用ス
- 第三條 志願兵ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 滿十七歳以上十八歳未滿 四尺九寸以上
 - 滿十八歳以上 五尺以上
- 第四條 徵兵檢查規則第四條及第五條ハ此規則ニ於テ之ヲ適用ス
- 第五條 身體檢查ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ志願兵志願者ヲ徵兵署若クハ徵兵檢查所ニ於テ檢查スルトキハ第一項第二項第三項第四項ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルコトヲ得
 - 一 志願兵ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ其身長ヲ測定シ次ニ尺帶ヲ取リ兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其縮張ノ差ヲ測ル
 - 二 「ステレルン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ志願兵ヲ立シメ初

メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢ス

- 三 頭首、脊推、四肢諸關節ノ屈伸、内外轉、同轉ノ諸運動ヲ檢ス
- 四 頭顱、顔面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸、肋、腋窩、上肢ノ前面及其兩側、腹肚、陰部、下肢ノ前面及其兩側、項、脊、腰、臀、膝、肛門、四肢ノ後面ヲ檢ス
- 五 其住所、氏名、年齡等ヲ問ヒ應答ノ問言語、精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等位ヲ定ム
- 第六條 體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ
 - 一 甲種 身體強健精神異常ナシテ兵役ニ堪フヘキモノ
 - 二 乙種 甲種ニ亞クモノ
 - 三 丙種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ
- 第七條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス但シ丙種中二十歳未滿者ヲ除ク永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別スヘシ
- 第八條 左ノ各項ノ一ニ該ルモノハ年齡及體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ體格檢査表第一ニ其意見ヲ記入スヘシ
 - 一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身長ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ

- 二 現ニ傷痍疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ治癒ノ目途アルモノ
- 第九條 一年志願兵志願者ハ特ニ近視ニシテ視力四分ノ一以上ノモノヲ合格トナスコトヲ得
- 第十條 醫官ハ検査終了ノ後一週日以内ニ體格表^{第二}病類表^{第三}ヲ調製シテ所管軍醫長ニ呈シ軍醫長之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ
- 第十一條 醫官ハ検査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添ヘ開申スルモノトス
- 第十二條 此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體検査ニ適用ス但シ幼年學校生徒志願者ニ在リテハ視力三分ノ二以上ニアラサレハ合格トナスコトヲ得
- 第十三條 諸生徒志願者ノ身長ハ左ノ如シ但シ別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ラス
 - 滿十五歲以上十六歲未滿 四尺七寸以上
 - 滿十六歲以上十七歲未滿 四尺八寸以上
 - 滿十七歲以上ハ第三條ニ同シ
- 第十四條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格検査表ハ検査終了ノ後各兵科現役士官候補生志願者ノ検査表ハ師團司令^{部ヲ經テ}候補生並諸生徒ノ屬スヘキ部隊ニ送附スヘシ

第一式

用紙美濃半葉

體格検査表										
等位	長身	視力辨色力	各部構造	要摘	姓名		年齡	胸廓構造	關節運動	聽力語
					氏名	何				
△府(縣)國郡(市)町(村)住族職業某何男兒(弟戶主等)										
△何 △地 検査場					△官 氏 名 印		△何年何ヶ月			
明治△何年△何月△何日					△何		△何			
△本表用紙ハ之ヲ要スル部隊ニ於テ調製スヘシ					△官 氏 名 印		△何			

明治何年何月何日	官氏名印	備考	合計	五十	四十九	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四		

●陸軍歸休兵條例

明治二十二年十二月 勅令第百四十五號

朕陸軍歸休兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍歸休兵條例

- 第一條 陸軍現役兵中徵兵令第十三條ニ依リ歸休ヲ命ス可キ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限リ警備隊諸兵ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル
- 第二條 歸休ヲ命ス可キ人員ハ其都度陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム
- 第三條 歸休兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ召集ス平常ト雖モ演習ノ爲メ又ハ原隊ニ於テ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス
- 第四條 歸休兵在郷中ハ大隊區司令官ノ監視ニ屬ス
- 第五條 歸休兵在郷中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス
- 第六條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若シハ免除スルコトナシ
- 第七條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ歸郷ナカラサル日數間ニ歸郷シ若後七日以内ニ市町村長東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ依リヲ經テ監視區長ニ

届出可

退營後衛戍地若クハ其他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可但歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲ス可シ

第八條 歸休兵在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第九條 歸休兵在郷中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ

第十條 歸休兵在郷中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ届出可シ

第十一條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス
對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條ノ例ニ依ル可シ

第十二條 歸休兵在郷中死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十三條 歸休兵在郷中重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十四條 歸休兵召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ監視區長ニ届出可シ

第十五條 本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集シタル雜卒職工ヲ包含ス
第十六條 警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ輜重輸卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ總テ本條例ニ依ル

第十七條 第七條第九條第十條及第十一條第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十八條 第七條第十條ノ通報人ニシテ正當ノ事由ナシ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附則

第二十條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

●陸軍歸休兵取扱手續

明治二十三年一月 陸達第五號

陸軍歸休兵取扱手續別冊之通定ム

(別冊)

陸軍歸休兵取扱手續

第一條 歸休ヲ命ス可キ人員ノ告達アリタルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下之ニ依リハ其人員ヲ各中隊ニ配賦ス可シ

第二條 各中隊長ハ前條ノ配賦ニ從ヒ殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ノ中家事ノ狀況ヲ顧慮シ其關係ノ厚キ者ヲ先トシ之ヲ選拔シ聯隊長ノ認可ヲ請ク可シ但本條ノ選ニ當ル者ト雖モ在營ヲ望ム者ハ其望ニ任ス可シ

第三條 歸休兵ハ定員外トシ現役滿期ニ至ル迄其人名簿ヲ聯隊獨立大隊ニ在テハ大隊ニ備置キ其

兵籍ハ本籍所管ノ大隊區司令部ニ送付ス可シ但人名簿ハ各中隊ヲ通シ選拔ノ順序ニ列記ス可シ

第四條 第二條ノ當選者中豫備ノ下士ト爲ス可キ上等兵アルトキハ退營ノ際下士適任證書ヲ附與シ現役滿期ノ際下士ニ任ス可シ其辭令書ハ聯隊長ヨリ大隊區司令官ヲ經テ本人ニ交付ス可シ

第五條 現役兵ニ非常ノ缺員ヲ生シ勤務教育等ニ差支ヲ生シ歸休兵ヲ以テ臨時補缺ヲ要スルトキハ聯隊長ハ其事由ヲ近衛都督又ハ師團長步兵ハ旅團長ヲ經テニ上申シ認可ヲ請ク可シ

第六條 歸休兵ヲ復隊セシムルニハ所要ニ應シ其人名簿末尾ノ者ヨリ順序ニ召集スルモノトス其命令書ハ聯隊長ヨリ大隊區司令官ヲ經テ本人ニ交付ス可シ

第七條 前諸條中聯隊長聯隊トアルハ警備隊ニ於テハ警備隊司令官警備隊トシ中隊長中隊トアルハ步兵砲兵隊長步兵砲兵隊トス

大隊區司令官大隊區司令部トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官警備隊區司令部トス

●徵兵検査規則

明治二十二年三月 陸軍省令第二號

陸軍醫官徵兵検査規則ヲ廢シ徵兵検査規則左ノ通定ム

徵兵検査規則

第一條 身體検査ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ合格ハ身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ不合格ハ疾病或ハ畸形ニシテ之ニ堪フヘカラサルモノトス而シテ此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 現ニ傷疾疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トス

第三條 現役兵ニ徵集スル者ノ身幹ハ五尺以上トス國民兵役ニ服スヘキ者ノ身幹ハ別ニ其尺度ヲ定メス

第四條 兵役ニ堪フヘカラサル疾病畸形ハ大約左ノ如シ

- 一 全身發育不全
- 二 骨、筋系瘦弱甚シキモノ
- 三 脂肪過多ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 四 慢性腺腫、慢性腺潰瘍
- 五 軟部ノ惡性若シハ著大ナル腫瘍、潰瘍
- 六 骨慢性炎、骨潰瘍、骨壞疽、骨腫瘍、骨軟化、佝僂病
- 七 瘰癧廣大ナルモノ或ハ骨ト癒著シテ運動ニ妨アルモノ

- 八 象皮腫、癩
- 九 出血病、白血病
- 十 動脈瘤、靜脈瘤及著大ナル脈腫
- 十一 慢性關節佝僂質斯、慢性痛風ニシテ著シキ器質ノ變化アルモノ
- 十二 癲癩、舞蹈病
- 十三 脊髓勞、進行性筋瘦小
- 十四 白痴、癲狂
- 十五 頭部畸形ノ著大ナルモノ
- 十六 眼瞼ノ内反、外反及涙癭
- 十七 角膜虹彩膜ノ疾患ニシテ視力ニ妨アルモノ
- 十八 斜視ニシテ一眼直視スルトキ他眼ノ角膜線内外眦ニ達スルモノ
- 十九 近視
- 二十 視力乏弱及夜盲
 - 海軍兵ニ在テハ視力乏弱及夜盲
- 二十一 失明
- 二十二 耳殼缺亡、慢性重聽、聾

- 二十三 鼻畸形ノ著大ナルモノ
- 二十四 鼻腔、前頭竇、上顎洞ノ慢性潰瘍、腫瘍
- 二十五 口内悪性潰瘍、唇頰癒着、口吻狹窄
- 二十六 唇又ハ齒牙ノ疾病缺損ニシテ咀嚼ニ妨アルモノ
- 二十七 口蓋ノ破裂、缺損、穿孔
- 二十八 舌若クハ唾腺ノ腫瘍、肥大、缺損又ハ扁桃腺ノ腫瘍、肥大ニシテ其著大ナルモノ及唾瘻
- 二十九 啞、嚥啞
- 三十 喉頭及氣管ノ畸形並ニ其慢性病
- 三十一 食道狹窄
- 三十二 斜頸及脊梁ノ畸形ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 三十三 胸廓畸形ノ著大ナルモノ
- 三十四 肺、胸膜ノ慢性病
- 三十五 心臟、心嚢ノ慢性病
- 三十六 腋臭及足汗ノ惡臭甚シキモノ
- 三十七 骨盤畸形ノ著大ナルモノ

- 三十八 歇兒尼亞
- 三十九 慢性脱肛、痔瘻又ハ著大ノ痔核ニシテ定期性出血、膿潰等アルモノ
- 四十 尿瘻、尿石及尿道畸形
- 四十一 睪丸、副睪丸ノ慢性炎、肥大及睪丸腹輪中ニ在テ疼痛ヲ發スルコトアルモノ
- 四十二 四肢ノ痲痺、削瘦、短縮、彎曲、假關節
- 四十三 關節畸形
- 四十四 脱臼若クハ習癖脱臼又ハ關節痿軟
- 四十五 拇指若クハ示指又ハ他ノ三指ノ爪甲全缺
- 四十六 陸軍兵ニ在テハ剩指又ハ指ノ癒着及小指末節ヲ除クノ他指節強剛
海軍兵ニ在テハ剩指又ハ指ノ癒着及指節ノ強剛
- 四十七 陸軍兵ニ在テハ環指若クハ小指ノ末節ヲ除クノ他一節以上又ハ環指小指共ニ一節以上ノ缺損
海軍兵ニ在テハ諸指一節以上ノ缺損
- 四十八 足ノ畸形
- 四十九 陸軍兵ニ在テハ大趾ハ一節以上他趾ハ二趾以上ニシテ一節以上ノ缺損

海軍兵ニ在テハ諸趾一節以上ノ缺損

五十 剩趾又ハ趾ノ著大ナル彎曲

第五條 前條各項ノ疾病畸形ト雖モ其輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ニシテ服役シ得ヘカラサルモノト認ムルトキハ不合格トス

●徵兵検査手續ヲ定ム

明治二十二年三月
陸達第三十七號

徵兵検査手續別冊之通定ム

但明治二十一年六月陸達第三百三十一號達陸軍徵兵検査手續ヲ廢ス

(別冊)

徵兵検査手續

第一條 徵兵検査手續ハ徵兵検査規則ニ據リ之ヲ定ムルモノナリ

第二條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ一日壯丁概チ百五十名ヲ検査シ旅管

徵兵委員タル醫官其検査ヲ要スルトキハ一日概チ五十名ヲ検査スヘシ

検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備附ノモノヲ使用ス

第三條 大隊區(警備隊區)徵兵署事務員タル地方徵兵醫員ハ四名トス

第四條 身體検査ノ順序ハ概チ左ノ如シ但シ測尺及視力關節運動各部構造ノ検査ハ

地方徵兵醫員ニ分擔セシムルモノトス

一 測尺主任ノ醫員ハ壯丁ヲ踵チ測尺柱ニ當テ、直立セシメ全身長ヲ測リ其尺度ヲ壯丁名簿ニ記入捺印シ次ニ尺帶ヲ取り兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其縮長ノ差ヲ測ルヘシ但シ身幹定尺ニ滿ツルモノ胸圍身幹ノ半ヨリ大ナルモノ縮長ノ差一寸五分以上ノモノハ壯丁名簿ニ捺印シ是ヨリ以下ノモノ及測尺困難ナルモノハ醫官ニ申告スヘシ

二 視力検査主任ノ醫員ハ「スチルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ壯丁ヲ立シメ初メ各偏眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢スヘシ其検査ニ由リ視力表ノ二十號ヲ明視スルモノ及辨色力完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

三 關節運動検査主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ頭首、脊推、四肢諸關節ノ屈伸、内外轉、回轉ノ諸運動ヲナサシメ其運動完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ラサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

四 各部構造検査主任ノ醫員ハ頭顱、顔面、眼、鼻、口、咽喉、耳、頸、胸、肋腋窩、上肢ノ前面及其兩側、腹肚、陰部、下肢ノ前面及其兩側、項、背、腰、臀、膝、肛門、四

肢ノ後面ヲ檢シ其完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ヲサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

五 醫官ハ主任醫員ノ申告ニ依リ不合格ト認メタルモノハ爾餘ノ検査ヲ止メ否ヲサルモノハ壯丁名簿ニ自ラ其意見ヲ記入シタル後他ノ検査ヲ行ハシム

六 醫官ハ主任醫員ノ検査終ル後壯丁ノ住所、氏名、年齢等ヲ問ヒ應答ノ問言語、精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等位ヲ定ム

第五條 體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ但丙種中ノ各區別ハ壯丁名簿ニ適宜記入スルモノトス

一 甲種 身長五尺以上ニシテ身體強健精神異常ナキモノ

二 乙種 身長五尺以上ニシテ甲種ニ亞クモノ

三 丙種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ及身長五尺ニ滿ル目的ナキモノ

四 丁種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ

第六條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ壯丁名簿ニ其意見ヲ記入スヘシ

一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身幹ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ

二 身體一部ノ形器官能ニ障礙アルモ輻重輸卒若クハ陸軍職工ノ服役ニ堪フヘキモノ

三 精神病、癩病、重聽、夜盲、遺尿又ハ自覺症ヲ訴フルモ現ニ其徵候ナク若クハ其徵候確實ナラサルモノ

第七條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ壯丁體格ノ適否ヲ判定シ難キ場合ニ於テハ當該徵募區検査期日內其検査ヲ續行スルコトヲ得而シテ尙決シ難キモノアルトキハ其理由ヲ附箋シテ旅管徵兵委員タル醫官ノ審決ニ附スヘシ

第八條 醫官ハ壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若クハ疾病ヲ作為スルモノト認メタルトキハ鑑定書ヲ製シテ當該徵兵官ニ致スヘシ

第九條 醫官ハ地方徵兵委員ノ其任ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ其意見ヲ當該徵兵官ニ申告スヘシ

第十條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ検査結了ノ後一週日以内ニ徵兵體格表第一式徵兵病類表第二式ヲ調製シテ旅管徵兵委員タル醫官ニ報告スヘシ

第十一條 旅管徵兵委員タル醫官ハ前條ノ報告ニ據リ旅管徵兵體格表旅管徵兵病類

兵事 海軍之部 (甲) (海軍部モ陸軍ト同一ナルヲ以テ必要部分ノ數件ヲ追加級ニ記載ス)

○文書

●防海費補助ノ詔 明治二十年三月二十五日 詔勅

詔勅

朕惟フニ立國ノ務ニ於テ防海ノ備一日モ緩クスヘカラス而國庫歲入未タ遽カニ其鉅費ヲ辨シ易カラス朕之カ爲ニ軫念シ玆ニ宮禁ノ儲餘三拾萬圓ヲ出シ聊其費ヲ助ク閣臣旨ヲ體セヨ

●停年計算停年名簿規則 明治二十二年十月 海軍省達第四百十三號

停年計算停年名簿規則左ノ通定ム

停年計算停年名簿規則

- 第一條 海軍高等武官ノ實役停年ハ現任官ヲ以テ就職辭令ノ日ヨリ起算ス但進級スルモ更ニ補職ノ辭令ナシ尙ホ前職ニアリシ者ハ本官官旨ノ日ヨリ起算ス
- 第二條 大學校軍醫學校及主計學校ノ學生タル間ノ日數、砲術水雷術又ハ機關術練

●停年計算停年名簿規則
停年計算停年名簿規則
削除 明治二十年八月
海軍省達第四百十三號
明治二十二年十月
海軍省達第四百十三號
例ト改メ第三條中